

CentreNET[®] AT-MailServer

User Manual

アライドテレシス株式会社

目次

0	はじめに	6
0.1	このマニュアルについて	6
0.2	表記について	6
1	設定	7
	AT-Mail Server Config ユーティリティ	8
	ショートカットアイコンの作成	9
	プロパティ・シートの設定	9
1.1	「製品情報」ページ (シリアル番号と認証キー)	10
1.2	「フォルダ」ページ (ディレクトリの設定)	10
1.3	「ログファイル」ページ	12
1.4	「メールユーザ」ページ	13
	一般メールユーザの新規登録 (個別)	14
	メールユーザの設定変更 (個別)	15
	一般メールユーザ名の変更	18
	NT メールユーザの新規登録 (個別)	18
	WindowsNT のグループをまとめて登録	20
	他の NT ドメインと信頼関係を結ぶ	20
	メールユーザの削除	21
	メールユーザの一括操作 (ファイルから入力)	22
	メールユーザ設定ファイル書式	25
	メールユーザの一括更新結果ログファイル形式	26
	コマンドラインでの一括設定	27
1.5	「サーバの起動・停止」ページ	28
1.6	「ドメイン」ページ	29
1.7	「メーリングリスト」ページ	30
	新規メーリングリストの作成	31
	一般メーリングリスト名の変更	32
	メーリングリストの削除	32
	NT メーリングリストの設定	32
	一般メーリングリストの設定	34
1.8	「別名の設定 宛先の別名」ページ	37
	別名の作成	37
	別名の削除	37
	ワイルドカードによる別名	38
	変換表の順序	38
	複数ドメインのサポート	38
	ファイルからの入力、ファイルへの保存	39
1.9	「再送信の設定 再送信の条件」ページ	39
1.10	「ルーティング」ページ (経路制御)	41

1.11「セキュリティ」ページ (ANTI-SPAM).....	42
スパムマスクリスト	45
スパムマスクリスト書式 (ワイルドカード).....	46
スパムマスクリストの使用例	46
2 メールサーバ全体の管理	48
2.1 メールサーバ全体のディスク容量の設定	48
2.2 ディスク管理警告メール	50
警告メール	50
ディスク管理警告メールの種類	50
メールサーバ全体とユーザごとのディスク容量の関係	51
メールサーバ全体とユーザごとの制限値の関係	51
2.3 警告メールメッセージのカスタマイズ	52
2.4 古いメールの自動削除	53
2.5 ディスクの使用状況と警告メール	56
2.6 自動削除の開始 / 終了時間とディスク使用状況のチェック時間	57
「 A 時から B 時までの間に自動削除する。」欄の時間が A < B の場合	58
「 A 時から B 時までの間に自動削除する。」欄の時間が A=B の場合	59
3 ディスク容量の設定	60
3.1 ユーザ毎のディスク容量設定方法	60
個別に設定する方法	60
まとめて設定する方法	63
4 共有メールボックスの管理	65
4.1 共有メールボックスについて	65
4.2 メールボックスの基本操作	65
新規作成	65
名称変更	67
削除	68
4.3 共有メールボックス	69
メールボックスの共有化	69
アクセス情報の設定・変更	71
5 メーリングリストの使用方法	72
5.1 メーリングリストの運用	72
メールサーバに一般メーリングリストを作成する	72
一般メーリングリストへの加入・脱退要求	72
モデレータの介入による加入・脱退操作	73
メーリングリストを削除する	73
5.2 メーリングリストのサブジェクト機能	74
文字列と連番の自動付与	74
5.3 メーリングリストの動作原理	77

5.4	メーリングリスト・プロセッサのコマンド	78
6	自動メール処理	79
6.1	自動返信機能	79
	設定例	80
6.2	自動転送機能	81
7	ログファイル	82
7.1	ログ採取の周期	82
7.2	ログの種類	83
	サーバの稼働状況 (サーバログ).....	83
	送受信メールの詳細状況 (操作ログ).....	84
	エラー情報 (エラーログ).....	85
7.3	ログファイルの自動削除	86
7.4	パフォーマンス・モニタの利用	87
	POP3S オブジェクト	88
	SMTPDS オブジェクト	88
	SMTPRS オブジェクト.....	89
	IMAP4S オブジェクト	89
8	製品情報とライセンスの追加	90
8.1	製品情報 - 製品情報ページ	90
8.2	ライセンス数の追加	90
9	トラブルシューティング	91
9.1	サービス起動時の問題	91
9.2	動作中によくある問題	92
9.3	telnet セッションを利用したトラブルシューティング	93
9.4	イベント・ログに記録されたエラー	94
9.5	古いメールの自動削除メッセージ内容	95
	イベントログ例	95
	管理者宛メールメッセージ例	95
	ユーザ宛メールメッセージ例	96
A	AT-Mail Server のメカニズム.....	97
	送信	97
	受信	98
A.1	SMTP 受信サーバ	98
A.2	SMTP 送信サーバ	99
A.3	POP3 サーバ.....	99
A.4	IMAP4 サーバ	100
A.5	使用するディレクトリ	100
	メールボックス・ディレクトリ	100

IMAP4 サーバでのメールボックス管理	100
送信メールの作業用フォルダ	101
B... コマンド構文	102
構文	102
説明	102
オプション	102
C... ディスク警告メールのメッセージ内容	104
C.1 ディスクフル警告の検出メール	104
C.2 ディスクフル警告の解消メール	104
C.3 ディスクフルの検出メール	105
C.4 ディスクフルの解消メール	105
D... プロトコル仕様	107
D.1 SMTP 受信サーバ	107
D.2 POP3 サーバ	107
D.3 IMAP4 サーバ	108
D.4 クライアントとのプロトコル	109
IMAP4 QUOTA Extension	109
IMAP4 ACL Extension	110
E... ユーザーサポート	111
調査依頼書のご記入にあたって	111
ソフトウェアとハードウェア	111
お問い合わせ内容について	111
ネットワーク構成について	112
ご注意	115
マニュアルバージョン	115
商標について	115

0 はじめに

この度は CentreNET AT-Mail Server をお買い上げいただきましてありがとうございます。
CentreNET AT-Mail Server は、WindowsNT 3.51、4.0、Windows 2000 上で動作するインターネット・メールサーバです。

0.1 このマニュアルについて

この冊子は、CentreNET AT-Mail Server (以下 AT-MailServer) の詳細について説明したマニュアルです。AT-MailServer の管理方法や、動作メカニズム、プロトコル、トラブルシューティングやユーザーサポートについて説明されています。AT-MailServer のオンラインヘルプと合わせてご覧ください。

0.2 表記について

- Windows NT 3.51、4.0、Windows 2000 で共通なことがらに関しては、Windows NT、NT と表記します (例「NT ユーザ」)。
- バージョンにより異なる場合、Windows NT 3.51、Windows NT 4.0、Windows 2000 のように表記します。
- AT-MailServer がインストールされているディスクは「C:」と仮定します。
- 起動ディスクは「C:」と仮定します。
- 直接ログオンしているマシン (コンピュータ) をローカル・マシンと呼びます。本文中では「pinokio」という名前を使用します。
- ネットワーク経由で操作しているマシンをリモート・マシンと呼びます。本文中では、「zulu」などです。

1 設定

CentreNET AT-Mail Server (以下 AT-MailServer) の設定は、「AT-MailServer 製品の環境」プロパティシートで行います。

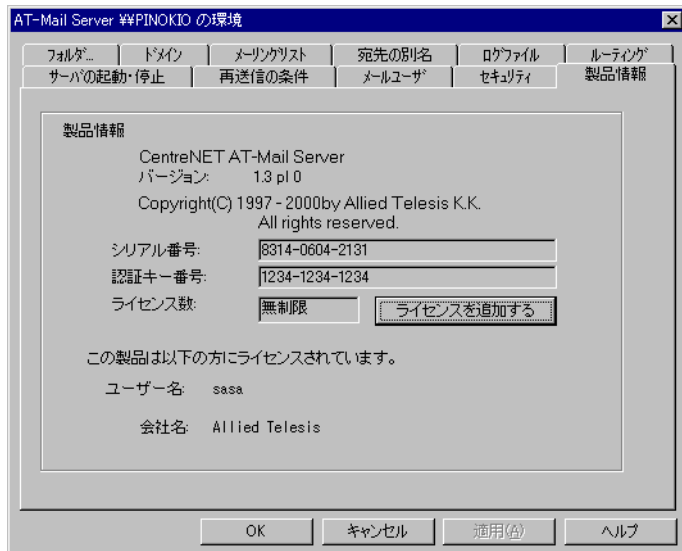


図 1.0.1

プロパティシートは、次の 2 つの方法で表示させることができます。

- 「コントロール・パネル」 「AT-Mail Server」アイコンをダブルクリックすると、ローカル・マシンの AT-MailServer のプロパティシートが表示されます。



図 1.0.2

- 「スタート」 「プログラム」 「AT-Mail Server Config」ユーティリティ (MAILCFIG.EXE) では、Microsoft ネットワーク上の任意の AT-MailServer を選択し、プロパティシートを表示できます (ローカル・マシンを含みます)。


AT-Mail Server Config ユーティリティ

このユーティリティを起動すると、次のようなウィンドウが現れます。



図 1.0.3

設定するコンピュータの名前をダブルクリックしてください。他のドメインのコンピュータを選択する場合、「ネットワーク全体」アイコンの左側の「プラス記号」をクリックして、ドメインのコンピュータをダブルクリックしてください(図 1.0.4)。Microsoft ネットワークドメインのサーバの一覧表示を更新(リフレッシュ)するには、そのドメインのアイコンをダブルクリックします。

一覧にないコンピュータを設定する場合、「サーバ」 「サーバ名を指定し設定する」を選択するか、ツールバー・アイコン  をクリックし、コンピュータ名を入力してください。

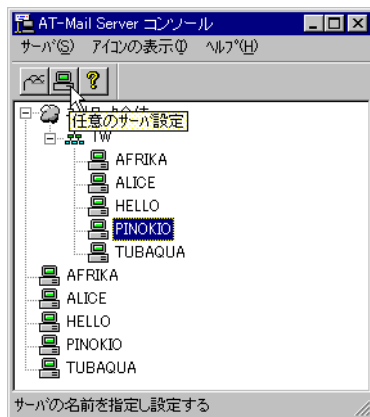


図 1.0.4

ショートカットアイコンの作成

管理のためなど、頻繁にリモート・マシン上の AT-MailServer にアクセスするような状況では、アイコンを作成しておくのが便利です。「C:\Program Files\Allied Telesis\MAILSERVICE\」フォルダを開き、「MAILCFG.EXE」のショートカットを作成して、リモート・マシンの名前を付けます（例：zulu）。作成したショートカットの「プロパティ」を開き、「ショートカット」ページの「リンク先」欄にリモートマシン名を記述してください。図 1.0.5 の例では、「zulu」を指定しています。

```
"C:\Program Files\Allied Telesis\MAILSERVICE\MAILCFG.EXE" ZULU
```



図 1.0.5

プロパティ・シートの設定

ローカル・マシンのコントロールパネルの AT-MailServer アイコンや、「AT-Mail Server Config」ユーティリティでコンピュータを選択すると、「AT-MailServer 環境」プロパティシートが表示されます。「環境」の部分には、設定の対象となるコンピュータ名が表示されます。

ダイアログの任意のページについて変更を加え、変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。変更内容は、直ちに AT-MailServer に適用されます。

ただし、「製品情報」ページと「フォルダ」ページ（「受信メールフォルダがないとき自動的に作成する」を除く）の情報は例外です。受信メールフォルダ、送信メールの作業用フォルダ、または稼働状況のログファイル作成フォルダを変更した場合、サービスを再起動するまで、変更は反映されません（「OK」ボタンをクリックし変更内容を保存するとき、このことが警告されます）。変更を中止にする場合は、「キャンセル」ボタンを使用します。

1.1 「製品情報」ページ（シリアル番号と認証キー）

このページには、AT-MailServer のインストール時に入力したシリアル番号、認証キー、バージョンおよび所有者についての情報が表示されます（ここで入力することはできません）。

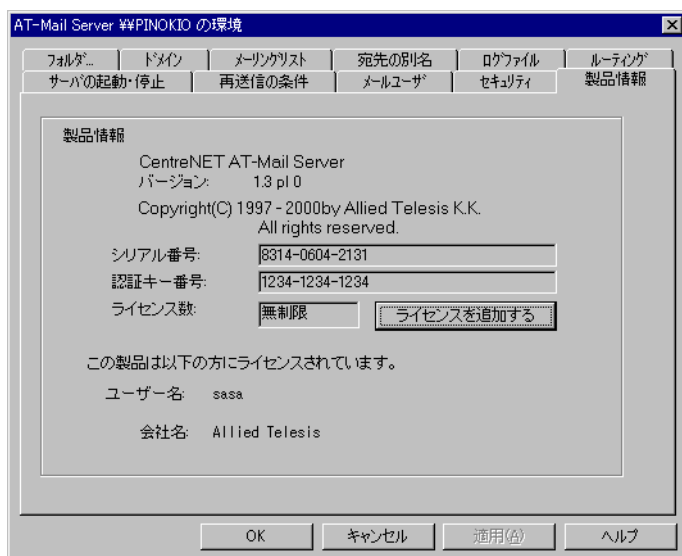


図 1.1.1

ユーザライセンスを追加する

AT-MailServer に登録可能なメールユーザの総数は、シリアル番号・認証キーによって決定されます。ユーザライセンス数の追加の詳細は、「8 製品情報とライセンスの追加」(p.90) をご覧ください。

注 AT-MailServer のライセンスでは、お使いの番号を他人に公開することを禁じています。また、同じシリアル番号を複数のマシンに使用することはできません。

1.2 「フォルダ」ページ（ディレクトリの設定）

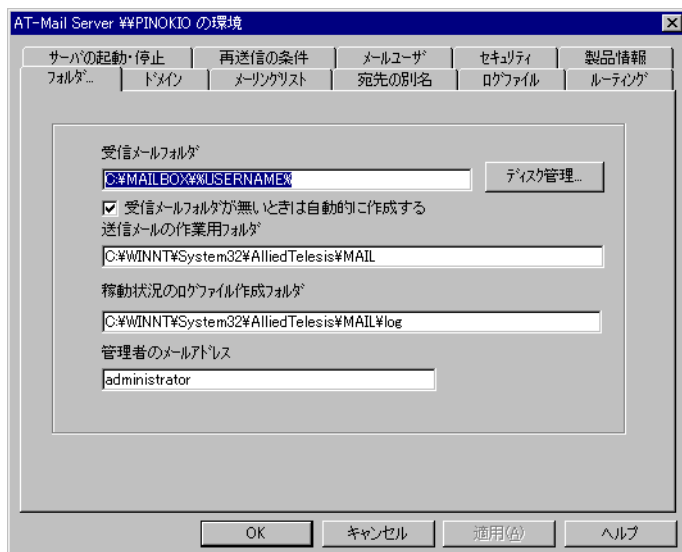


図 1.2.1

このダイアログでは、AT-MailServer で使用するディレクトリの設定、メールサーバ全体のディスク管理の設定、および管理者の設定ができます。メールサーバ全体の詳細は「2 メールサーバ全体の管理」(p.48)で説明します。

受信メールフォルダ

「受信メールフォルダ」欄には、各メールユーザのメールボックス・ディレクトリの位置を定義します。デフォルトでは、`¥MAILBOX¥%USERNAME%` です。メールユーザは、以下の2つから構成されます。

- ユーザ情報 - 後述のメールユーザ・ダイアログをを利用して管理します。
- メールボックス・ディレクトリ - この位置は、受信メールフォルダで決定されます。

メールボックス・ディレクトリの名前は、受信メールフォルダの指定の `%USERNAME%` を、メールユーザ名で置換したものになります。例えば、受信メールフォルダが `C:¥MAILBOX¥%USERNAME%` で、メールユーザが FRED の場合、メールボックス・ディレクトリは、`C:¥MAILBOX¥FRED` となります。

メールボックス・ディレクトリには、`inbox` と呼ばれるサブディレクトリが生成され、ここに受信メールが保存されます。`inbox` サブディレクトリは、そのメールボックスの受信メール・ディレクトリと呼ばれます。

ディスク管理

メールサーバ全体の受信できるメールのディスク容量、警告メールの設定、古いメールの自動削除の設定を行います。詳細は、「2 メールサーバ全体の管理」(p.48)をご覧ください。

受信メールフォルダが無いとき自動的に作成する

電子メールを受信したとき、そのメールを保存するためのディレクトリを自動的に作成するかどうかを制御します。デフォルトでは、チェックされています。このチェックボックスがチェックされていないときは、すべてのユーザの受信メールディレクトリをあらかじめ、作成しておかなければなりません。

送信メールの作業用フォルダ

送信メールの作業用フォルダは、ディレクトリ構造のルートであり、システムを通じて転送されるメッセージの「待ち場所」として働きます。デフォルトでは、`%SystemRoot%¥AlliedTelesis¥MAIL` です。`%SystemRoot%` は WindowsNT 3.51 では通常、`¥WINNT35¥SYSTEM32` となります。

SMTP 送信サーバ、受信サーバは、このディレクトリの下にサブディレクトリを作成します。この機能の詳細は、「A AT-Mail Server のメカニズム」(p.97)で説明しています。

稼働状況のログファイル作成フォルダ

稼働状況のログファイル作成フォルダは、ログ・ファイルを作成するディレクトリです。デフォルトは、`%SystemRoot%¥AlliedTelesis¥MAIL¥LOG` です。

管理者のメールアドレス

AT-MailServer の管理者のアドレスです。デフォルトは「administrator」です。このアドレスは、`foo@bar.com` のような完全なインターネット・メール・アドレスを指定してください。メールユーザは、メールユーザ・ページ(「1.4 「メールユーザ」ページ」(p.13))で作成します。

1.3 「ログファイル」ページ

このダイアログは、AT-MailServer の生成するログ情報を制御します。詳細は、「7 ログファイル」(p.82) をご覧ください。



図 1.3.1

ログファイルの切り替え

ログファイルを新しいファイルに切り替えるタイミングを設定します。

ログの種類

それぞれの種類のログを設定するために、サーバの稼働状況、送受信メールの詳細状況、またはエラー情報のいずれかを選択します。

ログファイル名

この種類のログファイルの名前を入力します。このファイルは、ログファイル・ディレクトリに作成されます。

ダイアログには、各種類に対するログ・オプションがあります。ログ・オプションは、「7 ログファイル」(p.82) をご覧ください。

NT イベント

イベント・ログにログ情報を書き込むには、この欄のボックスをチェックします。すべてのログ・オプションをイベント・ログに記録できませんので、注意してください。記録できないログ・オプションの場合、この欄にチェックボックスがありません。

ログファイル

各種類のログファイルにログ情報を出力するには、この欄のボックスをチェックします。

xxx 日を経過したログファイルは自動削除する

設定した日数を経過したログファイルを自動的に削除します。設定した日数は、すべてのログファイルに共通に設定されます。

1.4 「メールユーザ」ページ

「メールユーザ」ページは、メールユーザ名、パスワード、フルネームなどメールユーザ固有の情報を設定するページです。一覧には、すでに AT-MailServer に登録されているすべてのメールユーザが表示されます。¹



図 1.4.1

「登録ユーザ数」「ライセンス数」

「登録ユーザ数」には、現在 AT-MailServer に登録されているメールユーザの総数が表示されます。「ライセンス数」は、登録可能なメールユーザ数です（詳細は「8 製品情報とライセンスの追加」(p.90) をご覧ください）。

ツールバー

ページ左上にメールユーザの表示スタイル変更、メールユーザを登録、削除するボタンがあります。表示スタイルは、左から、大きなアイコン、小さなアイコン、一覧、詳細表示となっています。特に、詳細表示は各メールユーザの詳細が一覧で表示され便利です。

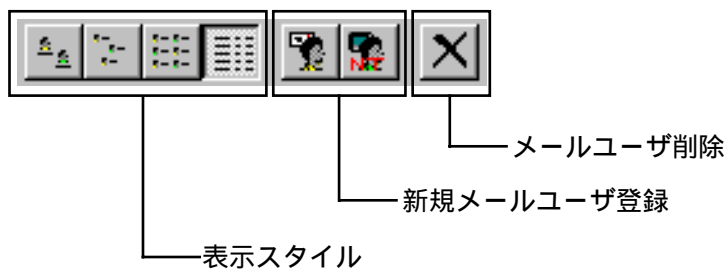


図 1.4.2



1. 各メールユーザのメールボックスは、「1.2 「フォルダ」ページ（ディレクトリの設定）」(p.10) の「受信メールフォルダ」で設定します。

メールユーザ

「メールユーザ」欄には現在登録されているメールユーザが表示されます。メールユーザは、次の2種類があり、どちらのメールユーザも対応するアイコンをダブルクリックすることで設定できます。



一般メールユーザ

一般メールユーザは、WindowsNT の「管理ツール」-「(ドメイン)ユーザーマネージャ」によって登録されていないが、すなわち WindowsNT にアカウントを持たないが、AT-Mail Server を使用するメールユーザです。



NT メールユーザ

NT メールユーザは、WindowsNT の「管理ツール」-「(ドメイン)ユーザーマネージャ」によって登録されており、すなわち WindowsNT にアカウントを持っており、AT-Mail Server を使用するメールユーザです(WindowsNT にユーザを登録するとき、漢字やスペースを含むユーザ名を使用しないでください)。

NT ドメインを参照しない


「NT ドメインを参照しない」チェックボックスをチェックすると、プライマリ・ドメイン・コントローラ (PDC) に NT ドメイン情報を問い合わせずに、ローカルマシンの情報だけを使用します。このコンピュータが NT ドメインに属していないとき、NT ドメイン情報を問い合わせる必要がありませんので、NT ドメインを参照しないをチェックしてください。¹

チェックされていない場合 (デフォルト)。NT ユーザをメールユーザとして追加するときや、NT ドメインのユーザの詳細情報を参照するとき、常に NT ドメインの PDC にドメイン情報を問い合わせます。

保存するときパスワードも含める

「ファイルに保存」するとき、または「ファイルから入力」でユーザ情報の待避 (バックアップ) が行われるとき、各メールユーザのパスワードを含めて保存するかどうかを指定します。ただし、NT ユーザのパスワードは保存されないことがあります。NT ユーザのパスワードを確実に保存するためには、該当のユーザ名で POP または IMAP サーバにログインした後、保存してください。

一般メールユーザの新規登録 (個別)

- 1 ツールバーの「新しい一般メールユーザ」ボタン  (左) をクリックしてください。
- 2 「メールユーザ」欄に「NEW USER」が反転表示されます。

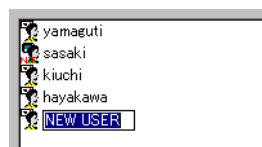


図 1.4.3



1. ワークグループによる運用の場合、チェックしてください。チェックしておかないと、NT ドメイン情報の問い合わせのために、ユーザ情報を表示するまでしばらく時間がかかることがあります。

- 3 「NEW USER」を delete キーで削除し、新しいメールアドレスを入力してください。この状態では、まだこのメールアドレスのメールボックスは作成されていません。引き続き、「メールアドレスの設定変更（個別）」(p.15)に進んでください。

メールアドレスの設定変更（個別）

- 1 メールユーザ (b-erika_e) のアイコンをダブルクリックしてください。

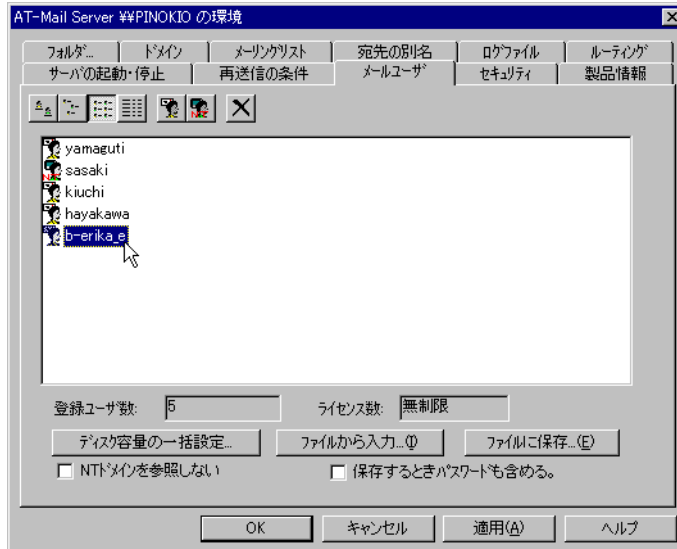


図 1.4.4

- 2 メールユーザのフルネーム、パスワードなど必要な項目を設定してください。各項目については、後述のリストをご覧ください。自動返信機能の完全な説明は、「6 自動メール処理」(p.79)をご覧ください。



図 1.4.5

ユーザ名

メールアドレス名です。ここでは変更できません。

フルネーム

ユーザのフルネームを入力します。「NT メールユーザ」の場合、WindowsNT に登録されているフルネームがデフォルトとして表示されます。「一般メールアドレス」の場合、空白

となっていますので適切な文字列を入力してください。フルネームは、AT-MailServer がメールを配信するとき To: 行のアドレスを書き直すときに使用されます。

パスワード

「NT メールユーザ」の場合、何も入力せずに空白にしておいてください。空白にしておくとも WindowsNT に登録されているパスワードが AT-Mail Server のパスワードとして使用されます。文字列を入力すると、AT-Mail Server はその文字列をパスワードとして使用します。例えば、この欄に WindowsNT と同じパスワードを入力した場合、WindowsNT 側のパスワードを変更しても、この欄に入力されてしまったパスワードはそのままとなります。「一般メールユーザ」の場合、メールユーザのパスワードを入力してください。パスワードは、半角英数字で 14 文字以内が入力できます。

パスワードの確認

「NT メールユーザ」の場合、何も入力しません。「一般メールユーザ」の場合、確認のために「パスワード」で入力した文字列をもう一度入力します。

転送先

このメールユーザに対するメッセージを転送する場合に電子メールアドレスを入力します。転送しない場合は、空白のままにします。

xxxx に受信メールを保存しない

チェックした場合、実際にはこのメールユーザのメールボックスにメール・メッセージを保存しません。通常は、転送先、または自動返信機能を使用する場合のみ設定します。

クライアントからのディスク使用量の変更権利を持つ

クライアントユーザにディスク使用量の変更権利を持たせる場合にチェックします。詳細は「3 ディスク容量の設定」(p.60) を参照してください。

メールボックスの操作

メールボックスの作成、削除、名前の変更、共通メールボックスを設定します。詳細は「4 共有メールボックスの管理」(p.65) を参照してください。新規ユーザの場合、このボタンをクリックすることにより、そのユーザのメールボックスが作成されます。

ディスク管理

ユーザ毎に受信できるメールのディスク容量を設定します。詳細は「第 3 章 ディスク容量の設定」を参照してください。

NT ドメイン名

メールユーザが属している NT ドメイン名が表示されます。ただし、次のような場合この項は空白となります(一般メールユーザの場合、この欄は適用されません)。「メールユーザ」欄を詳細表示にしたとき、リストの右端にもこの情報は表示されます。

- ローカル NT ユーザである
- このコンピュータが属する NT ドメインのドメインユーザである

自動返信

自動返信する

自動返信機能を使用する場合にチェックします。

受信メール本文も返信する

自動返信メッセージに、このユーザ宛に受信したメールの元のメッセージもつけて返信する場合にチェックします。

一度だけ返信する

どの送信者にも、自動返信が2度以上届かないようにするには、これをチェックします。

自動返信者

自動返信メッセージの送信者 (From: アドレス) として使用する電子メールアドレスです。

返信しない宛先

自動返信メッセージを送信しない電子メールアドレスの一覧です (1 行に 1 つ)。テキストの新しい行に移るには、Ctrl+Enter を押します。これらのアドレスに宛てた (または CC にこれらのアドレスの入っている) メッセージを受信した場合、自動返信は送信されません。通常、メーリングリストのアドレスをここに記述します (メーリングリストへの自動返信は、メールのループを生じさせるおそれもあるので慣習的に行わないのが普通です)。同じ理由で、AT-MailServer は owner-XXXXXX や XXXXXX-request アドレス (但し、XXXXXX はメーリングリスト名) には自動返信を送信しないので、注意が必要です。

返信メッセージ

自動返信メッセージの本文です。改行するには、Ctrl+Enter を押します。

- 3 新規ユーザの場合、「メールボックスの操作 ...」ボタンをクリックしてください。「MailBox」ディレクトリの下に新規ユーザのメールボックスが作成されます。

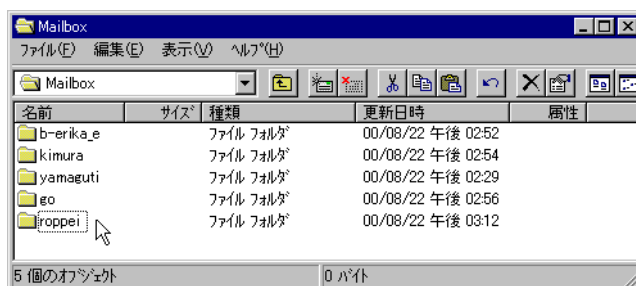


図 1.4.6

- 4 「適用」ボタンをクリックすると、内容が確定します。「適用」ボタンをクリックしたあとでプロパティ・シート全体のキャンセルを行っても、ここで行った変更はキャンセルできません。

一般メールユーザ名の変更

NT メールユーザの名前は変更できません。NT ユーザの管理には、NT ユーザ・マネージャを使用してください。

- 1 一般メールユーザをクリックし、選択してください。



図 1.4.7

- 2 一般メールユーザ名の上をクリックしてください(ダブルクリックにならないように注意してください)。文字列が反転表示され、編集可能となります。メールユーザ名を変更してください。

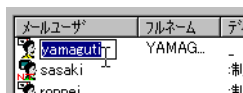



図 1.4.8

- 3 メールボックス・ディレクトリ名を手作業で変更してください。メールボックスは、デフォルトでは「C:¥MailBox」の下にあります。

NT メールユーザの新規登録 (個別)

- 1 ツールバーの「新しいNT メールユーザ」ボタン  (右) をクリックしてください。
- 2 次のダイアログが現れます。希望のコンピュータまたは WindowsNT のドメイン¹を選び、「選択」をクリックしてください。

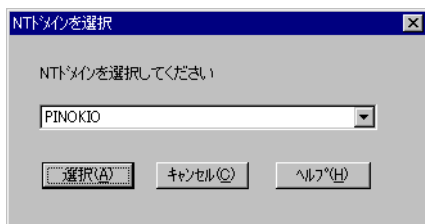


図 1.4.9 ローカル・マシンを選択する例



1. 他の NT ドメインのユーザをメールユーザとして登録するためには、「他の NT ドメインと信頼関係を結ぶ」(p.20) を行って置く必要があります。信頼関係が結ばれていない場合、このダイアログに他の NT ドメインは表示されません。

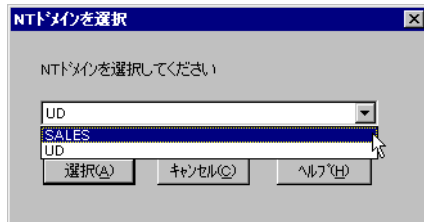


図 1.4.10 他の NT ドメインを選択する例

- 3 WindowsNT のユーザ¹ を選択するためのダイアログが現れます。「NT ユーザを選択する」の中から、WindowsNT のユーザ (inoue) を選択し「追加」ボタンをクリックしてください。このダイアログが閉じます。



図 1.4.11

- 4 「メールユーザ」欄に新規 NT メールユーザのアイコンが作成されます (inoue)。新規 NT メールユーザを選択しておき、「適用」ボタン (NT3.51 では「更新」ボタン) をクリックしてください (「適用」をクリックすることにより、新規 NT メールユーザは登録されます)。



図 1.4.12



1. スペースや漢字を含んだ WindowsNT のユーザ名はお勧めできません。多くのメール・クライアントや、その他のメール・ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。メールを送信するときに名前を二重引用符でくると正常に送信できますが ("Mr Foo"@myco.myco.com)、こういった名前は使用しない方が無難です。

- 5 新規 NT メールユーザのアイコンをダブルクリックし、NT メールユーザの詳細を設定します。「メールユーザの設定変更(個別)」(p.15)に進んでください。

WindowsNT のグループをまとめて登録

- 1 WindowsNT ローカル・グループに属すユーザをまとめて登録するには、図 1.4.11 の「NT グループメンバーの追加」ボタンをクリックします。追加するグループを選択するダイアログが表示されます。
- 2 「NT ユーザを選択する」欄の矢印キーをクリックするとグループ一覧が表示されます。その中から登録するグループを選択し、「追加」ボタンをクリックします。
- 3 例えば「Users」を選択して「追加」ボタンをクリックすると、NT ユーザ全員が「メールユーザ」欄に表示されます。

他の NT ドメインと信頼関係を結ぶ

他の NT ドメインの NT ユーザをメールユーザとして登録するためには、その NT ドメインと信頼関係を結び、各 NT ドメインの PDC の「administrator」ユーザ(管理者)のパスワードを同じものにします。¹

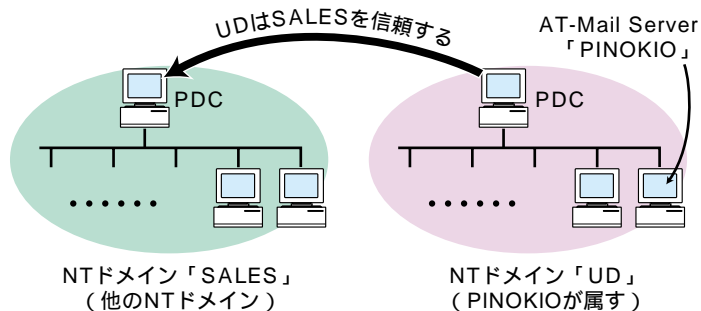


図 1.4.13

例えば、NT ドメイン「UD」に属す AT-Mail Server「PINOKIO」に NT ドメイン「SALES」のユーザをメールユーザとして登録するためには、次のようにして信頼関係を結びます。


- 1 「UD」の PDC に信頼する NT ドメインを登録します。「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「ドメインユーザマネージャ」をクリックしてください。「ドメインユーザマネージャ」の「原則」「信頼関係」をクリックしてください。「信頼関係」ダイアログが現れます。「信頼する側のドメイン」追加ボタンをクリックし、「SALES」を登録します。
- 2 「SALES」の PDC に信頼される NT ドメインを登録します。手順 1. と同様にして、「信頼関係」ダイアログを表示し、「信頼される側のドメイン」の追加ボタンをクリックして「UD」を登録します。



1. AT-Mail Server の通常の運用では、administrator のパスワードを同じものにする必要はありません。この条件は、他の NT ドメインに属するメールユーザの登録・変更・削除を行うときに必要となります。

- 3 各 NT ドメインの PDC「SALES」「UD」の管理者 (administrator) のパスワードを同じもの にします。

メールユーザの削除

- 1 削除したいメールユーザを選択し、「削除」ボタン  をクリックします。
- 2 次のダイアログが現れます。必要なオプション項目をチェックして、「OK」ボタンをクリックしてください。オプション項目を全く選択せずに「OK」ボタンをクリックした場合、メールユーザの削除だけが実行されます。「キャンセル」をクリックした場合、ユーザは削除されません。

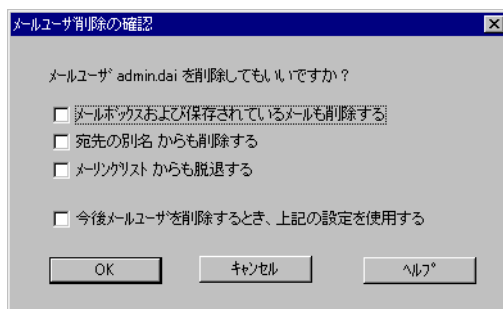


図 1.4.14 メールユーザ削除の確認

メールボックスおよび保存されているメールも削除する

「フォルダ」ページで指定されている受信フォルダの該当ユーザのディレクトリ以下をすべて削除します (例 : C:\mailbox\hanako)。ただし、リモートマシンのメールボックスは削除できません。

宛先の別名からも削除する

「宛先の別名」ページに登録されているエントリのうち、正式アドレスが削除されようとしているメールユーザと同じ名前 (username 形式 (@マークを含まない形式) のみ) の別名を削除します。正式アドレスが username@host.domain 形式のとき、username 部分が削除されようとしているメールユーザと同じであり、かつ、host.domain 部分が、ローカルマシンと同じであるかまたはドメインページに定義されている仮想ドメインならば、その別名を削除します。

メーリングリストからも脱退する

一般メーリングリストのメンバーとして登録されているとき、該当ユーザを脱退します。このオプションでは、NT メーリングリストからの脱退はできません。削除されようとしているメールユーザと同じ名前 (username 形式 (@マークを含まない形式) のみ) のメンバーを脱退します。メンバーのアドレスが username@host.domain 形式のとき、username 部分が削除されようとしているメールユーザと同じであり、かつ host.domain 部分がローカルマシンと同じであるかまたはドメインページに定義されている仮想ドメインならば、脱退します。

今後メールユーザを削除するとき、上記の設定を使用する

複数のメールユーザを選択し削除するとき、1 ユーザごとにこのダイアログが表示されますが、このチェックボックスをチェックすると、以降に削除されるメールユーザに対

しては、このダイアログが表示されず、すべての削除対象ユーザについて、ここでの設定値が使用されます。AT-Mail Server 環境設定ユーティリティを起動し直すと、このチェックボックスは無効になります。

- 3 「AT-Mail Server 環境」ダイアログに戻ります。「OK」ボタンまたは「適用」ボタンをクリックしてください(ユーザ名はダイアログの一覧から消えています、「OK」または「適用」ボタンをクリックするまでユーザの実体は削除されません)。「OK」ボタンは削除を完了し、ダイアログを閉じます。「適用」ボタンは削除だけを実行し、ダイアログを閉じません。

メールユーザの一括操作 (ファイルから入力)¹

csv ファイル² を利用し、複数のメールユーザを一括して登録、変更、削除することができます。ファイルの書式は、「メールユーザ設定ファイル書式」(p.25) をご覧ください。特に、一括削除の場合、「ファイルに保存...」で保存し、テキストエディタでそのファイルから削除したいメールユーザのリストを作成するのが簡単です。

- 1 「ファイルから入力...」をクリックしてください。

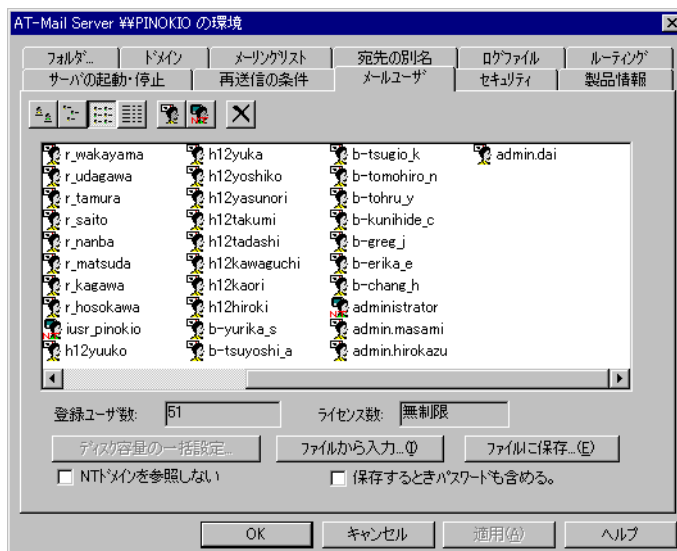


図 1.4.15



1. メールクライアントとして、弊社 AT- 承認メール /AT- 承認メール Jr. をご使用になれば、付属の「ユーザマネージャ」でメールユーザの一括登録に加え、メールクライアントの環境設定も同時に一括して行うことができます。
2. 項目をコンマ「,」で区切ったテキストファイル。

2 入力ファイル名、ファイル形式など必要な情報を入力して、実行をクリックしてください。

図 1.4.16

入力ファイル名

メールユーザ情報ファイル名を指定します。このファイルは必ず指定してください。参照ボタンを押すと目的のファイルを探すことができます。

ファイル形式

csv 形式 (コンマ区切り)

ファイル形式には、各項目 (フィールド) をコンマ (,) で区切った csv 形式が利用できます。このファイルには、ユーザ名、フルネーム、パスワード、メールユーザの種類を記述します。なお、「メールユーザ」画面で、「ファイルに保存」ボタンを押すと、現在登録されているすべてのメールユーザの情報が csv 形式として保存できます。

csv 形式 (Addusers コマンド用)

現在のバージョンではサポートされていません。

LDIF (LDAP 用)

現在のバージョンではサポートされていません。

入力ファイルの中のユーザ名と同一名のユーザが登録済みの場合

テキストファイルの中で指定したユーザ名と同一名のメールユーザがすでに登録されているときの動作を指示します。

変更しない

対象メールユーザの情報はなにも変更されません。

ユーザ情報を置き換える

対象メールユーザの情報はテキストファイルで指定した内容に置き換わります。なお、空欄とした項目は変更されません。削除したい項目がある場合は、その項目欄にハイフン (-) のみを指定します。

削除する

対象メールユーザは削除されます。指定したファイルの全てのユーザ名を一括で削除したいときに使用します。

削除オプション

図 1.4.14 (p.21) のオプションをご覧ください (4つのオプションがあります)。

現在のユーザ情報を待避してから実行する

このチェックボックスをチェックしておく、テキストファイルを読み込む前に、現在登録されているユーザ情報のすべてを待避ファイルとして csv 形式で保存します。

待避ファイルをそのまま「ファイルから入力」することで、メールユーザ情報をもとに戻すことができます。

ここをチェックし、あらかじめ現在の登録情報を待避しておくことをお勧めします。「メールユーザ」ページの「保存するときパスワードも含める」をチェックしておく、各ユーザのパスワードも待避ファイルに保存します。

待避ファイル名

現在登録されているユーザ情報の待避先ファイル名を指定します。すでに同一名のファイルが存在するときは、上書きされます。

デフォルトの保存先フォルダは、フォルダページの稼働状況のログファイル作成フォルダと同じです。デフォルトのファイル名は mailuser.txt です。

処理結果をログファイルに記録する

csv ファイルを使って、メールユーザ情報を一括更新したとき、その処理結果をログファイルに記録します。このファイルを参照することで、入力ファイルの処理状況が確認できます。ファイルの書式は、「メールユーザの一括更新結果ログファイル形式」(p.26) をご覧ください。

ログファイルは、ログファイル名の欄に指定されたファイル名に記録されます。すでに同一名のファイルが存在するときは、上書きされます。

ログファイル名

デフォルトの保存先フォルダは、フォルダページの稼働状況のログファイル作成フォルダと同じです。デフォルトのファイル名は userlog.txt です。

メールユーザ設定ファイル書式

メールユーザ情報を csv 形式で入力するとき、または保存されるときは、項目（フィールド）をコンマ（,）で区切り、1行に1メールユーザの情報を記述します。^{1 2}

```
UserName, FullName, Password, UserType, ForwardTo, DontDeliver,  
Privilidged, EnableAutoReply, ReplyOnce, EchoMessage, Reply-  
From, NoReplyTo, Message, QuotaLimit, QuotaTrigger, NTDomain
```

表 1.4.1 各フィールドの意味

UserName	メールユーザ名を記述します。
FullName	フルネームを記述します。途中にコンマが必要な場合は、全体をダブルクォーテーション（"）で囲みます。
Password	メールユーザのパスワードを暗号化しない文字列で記述します。
UserType	NT メールユーザのとき、NT と記述します。一般メールユーザのときは空欄です。
ForwardTo	転送先（例：me@another.company.com）
DontDeliver	受信メールを保存しないとき 1。保存するとき 0。
Privilidged	ディスク使用量の変更権利を持つとき 1。持たないとき 0。
EnableAutoReply	自動返信するとき 1。しないとき 0。
ReplyOnce	一度だけ返信するとき 1。しないとき 0。
EchoMessage	受信メール本文も返信するとき 1。しないとき 0。
ReplyFrom	自動返信者（例：me@this.company.com）
NoReplyTo	返信しない宛先（例："foo@bar.com, baz@bar.com"）
Message	返信メッセージ
QuotaLimit	ディスク容量 - 最大使用可能
QuotaTrigger	ディスク容量 - 警告通知条件
NTDomain	NT ドメイン名を記述します。このフィールドが存在しないか、または空白の場合、このメールサーバが属する NT ドメインであるか、または NT ドメインに属していないとみなされます。



1. サンプルファイル「userlist.csv」が AT-Mail Server のインストール先にあります。（デフォルトのインストール先：C:\Program Files\Allied Telesis\MAILSERVICE\）
2. 同一名のメールユーザの扱い方法については、「入力ファイルの中のユーザ名と同一名のユーザが登録済みの場合」で指定します。

メールユーザの一括更新結果ログファイル形式

メールユーザを一括更新した結果のログファイルは、入力時に使用した csv 形式の各行の先頭に、処理結果が追加記録されたものです。

(例)

新規, mailuser1, 一般メールユーザのフルネーム, mailuser1pass, , , , ,
無視, mailuser2, NT メールユーザのフルネーム, NT
更新, mailuser3, メールユーザ 3 のフルネーム,
削除, mailuser5, メールユーザ 5 のフルネーム, NT
不正, mailuser6, メールユーザ 6 のフルネーム, NT
(空白),
追加失敗, mailuser7, メールユーザ 7 のフルネーム, NT

表 1.4.2 処理結果の意味 (先頭フィールド)

新規	新規メールユーザとして正常に登録しました。同一名のメールユーザは登録されていませんでした。
無視	同一名のメールユーザが登録されていたので、この行は無視しました注)。
更新	同一名のメールユーザが登録されていたので、メールユーザ名をそのままにし、その他の指定情報を置き換えました注)。
削除	同一名のメールユーザが登録されていたので、削除しました注)。
不正	メールユーザ名またはパスワードに使用できない文字列があった場合などのため、処理できない形式でしたので、この行は無視しました。
(空白)	前の行の継続行とみなしました。
追加失敗	新しいメールユーザを追加できませんでした。

コマンドラインでの一括設定

コントロールパネルを用いた一括設定の他に、DOS プロンプトから実行するコマンドも使用できます。このコマンドを利用することにより、他のアプリケーションからも一括登録・設定が可能になります。コマンド形式は、以下の通りです。

```
c:¥>Mailusers Options
```

表 1.4.3 Option

<code>-f userlist_file_name</code>	csv 形式のユーザリストファイルを指定します。
<code>[-t user_file_type]^a</code>	csv 形式の種類を指定します（現バージョンでは、常に 0 とみなします）。
<code>[-a action_type]</code>	同一ユーザ名が登録されていたときの動作を指定します。 0: 何もしない。 1: 置換（追加） 未登録のユーザがあったとき、そのユーザを新規追加します。 2: 削除（無視） 未登録のユーザがあったとき、そのユーザを無視します。
<code>[-b backupfile]</code>	ユーザ情報のバックアップファイル名を指定します。デフォルトは mailuser.txt。ファイル名が「-」のときは、バックアップをとりません。
<code>[-l logfile]</code>	ログファイル名を指定します。デフォルトは userlog.txt。ファイル名が「-」のとき、処理結果を記録しません。
<code>[-d delete_option]</code>	メールユーザを削除するときのオプションを選択します。 ^b 論理和によって、複数のオプション値を同時に指定することができます。 0: オプション指定なし（デフォルト） 1: メールボックスおよび保存されているメールも削除する。 2: 宛先の別名からも削除する。 4: メーリングリストからも脱退する。
<code>[-p 1]</code>	バックアップファイルに各ユーザのパスワードを含めます。指定しないときは、パスワードは保存されません（デフォルト）。

a. [] 付きの option は、省略可能であることを意味します。

b. 引数「-d」の効果は、コマンド行で「-a 2」または「-a 3」（削除）を指定したときだけです。引数「-a 1」（置換）を指定したとき、引数「-d」は意味を持ちません。

[使用例]

```
C:\>Mailusers -f userlist.csv  
C:\>mailuser -f userlist.csv -a 2 -d 3
```

1.5 「サーバの起動・停止」ページ

このページは、AT-MailServer の管理などのために、一時的にサービス（サーバ）の起動、停止を行うとき使用します。



図 1.5.1

このダイアログでは、4つのサービスを個々に起動、停止できます。電球はそれぞれのサービスの状態を示します。サーバ全体のボタンで、すべてのサービスを起動、または停止できます。

AT-MailServer のデフォルトの状態では、AT-MailServer の4つのサービスの全てが WindowsNT の起動時に自動的に起動するように設定されています。例えば「WindowsNT の起動の時点で IMAP4 サーバは起動させずに、他の3つのサーバだけを起動させる」ようにしたい場合は、「コントロールパネル」の「サービス」アイコンをダブルクリックし、「サービス」パネルの「AT-Mail Server IMAP4 Server」の「スタートアップ」を「無効」に変更します。



図 1.5.2

ここで説明した「サーバの起動・停止」タブは、一時的に起動または停止をコントロールするためのものであり、恒久的な起動や停止を行うことはできない点にご注意ください。

POP サーバ、SMTP 受信サーバ、IMAP4 サーバの電球の右の数字は TCP/IP での各ポート番号です。それぞれ 110、25、143 です。

コンピュータウィルスチェッカーを併用する場合などは、SMTP の受信ポート番号を変更する必要があります。SMTP の受信ポート番号だけでなく、POP3、IMAP4 の各ポート番号を変更することができます。

ポート番号を変更するには、該当するサーバを停止し、ポート番号の欄に数字を入力します。

注 DNS に正しくアクセスできないと各サーバの電球が表示されないことがあります。

1.6 「ドメイン」ページ

AT-MailServer 用の仮想ドメイン（およびその他の項目）を設定するには、ドメイン・ページを使用します。



図 1.6.1

仮想ドメイン

AT-MailServer がローカルとみなす仮想ドメインの一覧を指定します。例えば、mydomain.co.jp がこの一覧に入っている場合、yukino@mydomain.co.jp へのメールは、ローカル・ユーザ yukino に配送されます。

受信メール1通あたりの最大バイト数

受信できる最大のメッセージの大きさをバイト単位で指定します。デフォルトは0で、この場合、メモリとディスク容量の制約を除いて、大きさに制限を設けません。

送信できなかったメールを管理者に通知する

このボックスをチェックした場合、ローカル・ユーザへのメールについてのみ、送信できなかったメールの通知のコピーを管理者に送信します。デフォルトでは、チェックされていません。

発信者の表示形式

メール・エージェントとその設定によっては、送信する From: ヘッダが正しくない場合があります。通常は、メール・エージェントがユーザ名を From: 行に書き、メール・システムが、適切な @domain コンポーネント¹をそれに追加します。このページのラジオ・ボタンで、AT-MailServer の From: 行の書式を設定できます。変更しない場合、From アドレスを書き直しません。その他の 2 つのボタンの場合、文法的に正しくない From アドレスを、2 種類の書式のうち、指定の書式で書き直します。

1.7 「メーリングリスト」ページ

メーリングリストは、複数のメールアドレスをグループ化して、名前を付けたものです。通常のメールの場合、複数の宛先にメールを出すためには、メールアドレスを羅列しなければなりません。メーリングリストではメーリングリストのアドレスを指定するだけで、リストに登録されているユーザ全員にメールを出すことができます。メーリングリストは、例えば同じ趣味を持った人たちが趣味について情報交換をするような目的で使用します。

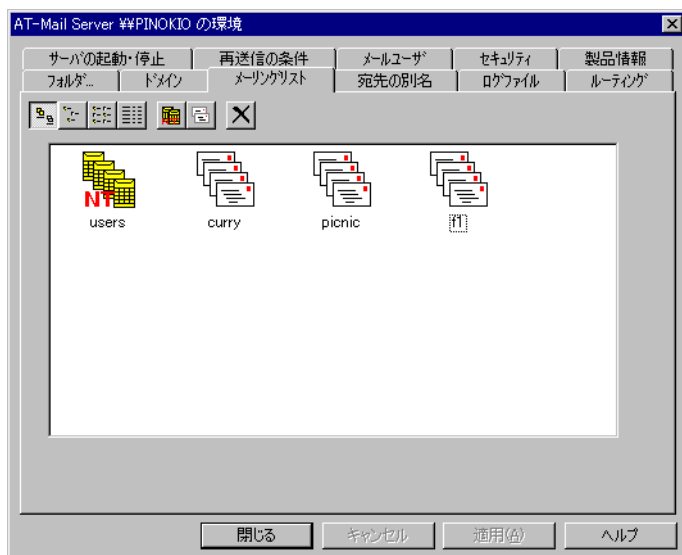


図 1.7.1

メーリングリスト

AT-MailServer に登録されているすべてのメーリングリストが表示されます。メーリングリストには、以下の 2 種類があります。どちらの種類のも、それぞれのアイコンをダブルクリックすることで、詳細を設定できます。



一般メーリングリスト

リストのメンバー全員にメールメッセージを送信します。
通常、このメーリングリストを使用します。



NT メーリングリスト

NT グループに属すユーザの全員にメールメッセージを送信します。
NT グループに属すユーザの変更は、NT ユーザ・マネージャで行います。



1. 例えば「@mydomain.co.jp」

ツールバー

ページ左上にメーリングリストの表示スタイル変更、メーリングリストを登録、削除するボタンがあります。表示スタイルは、左から、大きなアイコン、小さなアイコン、一覧、詳細表示となっています。特に、詳細表示は各メールユーザの詳細が一覧で表示され便利です。

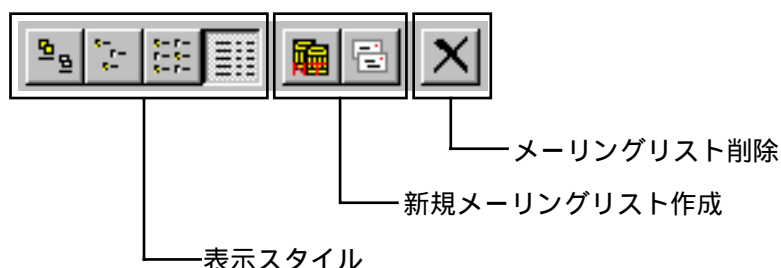




図 1.7.2

新規メーリングリストの作成

- 1 「新しい一般メーリングリスト」ボタン  または「新しい NT メーリングリスト」ボタン  をクリックしてください。通常は、一般メーリングリストを使用します。
- 2 「新しい一般メーリングリスト」ボタンをクリックすると、「メーリングリスト」欄に「NEW MAILING LIST」が反転表示されますので、ご希望のメーリングリスト名を入力してください。

「新しいNT メーリングリスト」ボタンをクリックした場合、ローカル・マシンのNT グループを選択するダイアログが表示されます。

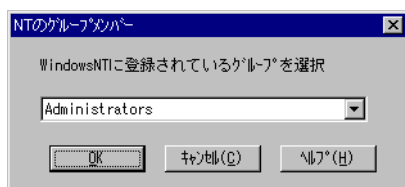


図 1.7.3

ドロップダウン・リストから NT グループを選択し、「OK」ボタンをクリックします。新しいアイコンが作成され、それをダブルクリックすると、新しいNT メーリングリストの詳細を編集できます。


スペースや日本語を含んだ WindowsNT のグループ名はお勧めできません。多くのメール・クライアントや、その他のメール・ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。メールを送信するときに名前を二重引用符でくくると正常に送信できますが ("Backup Operators" @mypc.myco.com など) に送る場合、こういった名前は使用しない方が無難です。

一般メーリングリスト名の変更¹

NT メーリングリストの名前は変えられません。NT グループの管理には、ユーザ・マネージャを使用します。

- 1 メーリングリストのアイコンをクリックし、選択してください。
- 2 メーリングリスト名をクリックしてください(ダブルクリックにならないように注意してください)。文字列が反転表示され、編集可能となります。
- 3 ディスク上のリストのディレクトリの名前は変更されません。ディレクトリの名前は、手動で変更する必要があります。

メーリングリストの削除

メーリングリストのアイコンをクリックで選択し、削除ボタン  を押します。

NT メーリングリストの設定

「NT メーリングリスト」アイコンをダブルクリックすると、以下のダイアログが表示されます。ダイアログのタイトルには、編集しようとしているメーリングリストの名前が表示されます。

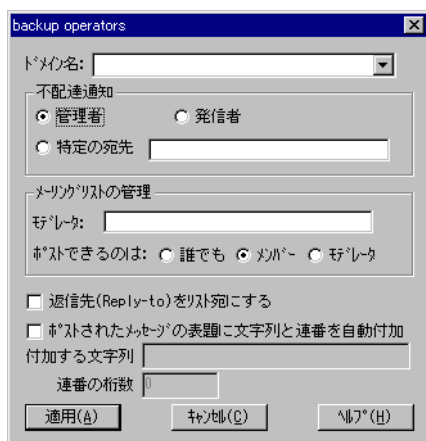


図 1.7.4

ダイアログには、「OK」ボタンではなく、「適用」ボタンがあることに注意してください。「適用」ボタンをクリックしたあとでこの設定ユーティリティ全体のキャンセルを行っても、ここで行った変更はキャンセルされません。

ドメイン

この欄には、メーリングリストが所属するメール・ドメインの名前を指定します。ここに何も指定しない場合、メーリングリストはローカルなマシン名に関連づけられます。例えば、マシンが mypc.mydomain.com という名前の場合、users メーリングリストからのメッセージは、users@mypc.mydomain.com から来るように見えます。この欄に mydomain.com と入力す



1. 「一般メールユーザ名の変更」(p.18) と手順は同じです。

ると、そのリスト中のメッセージは、users@mydomain.com から来るように見えるようになります。なお、この場合ドメイン・ページの仮想ドメイン・リストにも、mydomain.com を入力する必要があることに注意してください。

不配達通知

メーリングリストのメンバーにメッセージが配送できなかった場合にどうするかを指定します。オプションは、次のとおりです。

管理者

送信できなかったメールの通知を、管理者に送信します（ただし、ドメイン・ページで、送信できなかったメールを管理者に通知するを有効にした場合に限りです）。これがデフォルトの設定です。

発信者

送信できなかったメールの通知を、メッセージの発信者に送ります。迷惑メール（スパム）対策をするときは、このオプションを指定してください。

特定の宛先

送信できなかったメールの通知を、指定の電子メールアドレスに送ります。

メーリングリストの管理

モデレータ¹

この欄には、モデレータの電子メールアドレスを指定します。

ポストできるのは

この各ラジオボタンを使って、リストにメッセージをポストできるユーザを、以下の 3 種類から選択できます。

誰でも：

リストには、誰でもメッセージをポストできます。

メンバー

メンバーだけがポストできます（デフォルト）。

モデレータ

モデレータしかポストできません。

返信先（Reply-to）をリスト宛にする

このボックスをチェックすると、メーリングリストからのメッセージには Reply-to: ヘッダ・フィールドが追加され、メッセージへの返事が、メーリングリストに送信されるようにされます。ただし、メーリングリストに向けて送信されたメッセージにすでに Reply-to: ヘッダがある場合は例外で、その Reply-to: フィールドはそのまま残され、新しく Reply-to: フィールドが付加されることはありません。



1. moderator、メーリングリストの司会者または管理者。

ポストされたメッセージの表題に文字列と連番を自動付加

メーリングリストに新たなメールをポストするたびに、そのメールの表題 (Subject) の先頭に文字列と通し番号を挿入することができます。

この機能を利用することにより、そのメールの表題を見るだけでメーリングリスト宛のメールであることがわかったり、また通し番号により、メールの投函順 (発言順) がわかるため、メールの整理や管理に便利です。

通し番号は、ポストするメッセージ毎に1ずつ加算されます。

一般メーリングリストの設定

一般メーリングリストをダブルクリックすると、以下のダイアログが表示されます。ダイアログのタイトルは、編集しているメーリングリストの名前です。このダイアログは、NT メーリングリスト用のダイアログと似ていますが、メーリングリストのメンバーが表示され、また追加、削除ができます。

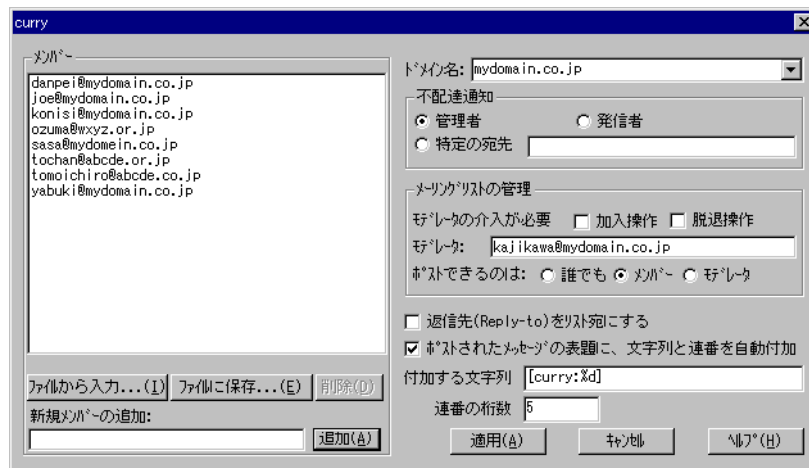


図 1.7.5

ダイアログには、「OK」ボタンではなく、「適用」ボタンがあることに注意してください。「適用」ボタンは、リストの設定が、直ちにレジストリに保存されるために用意されています。あとでプロパティ・シート全体のキャンセルを行っても、ここで行った変更はキャンセルされません。

ドメイン

この欄には、メーリングリストが所属するメール・ドメインの名前を指定します。ここに何も指定しない場合、メーリングリストはローカルなマシン名に関連づけられます。例えば、マシンが mypc.mydomain.co.jp という名前の場合、curry メーリングリストからのメッセージは curry@mypc.mydomain.co.jp から来るように見えます。この欄に mydomain.co.jp と入力すると、そのリストからのメッセージは curry@mydomain.co.jp から来るように見えます。なお、その場合ドメイン・ページの仮想ドメイン・リストにも mydomain.com を入力する必要があることに注意してください。

不配達通知

メーリングリストに登録されているメンバーにメッセージが配送できなかった場合、どう対応するかを指定します。オプションは、次のとおりです。

管理者

送信できなかったメールの通知を、管理者に送信します（ただし、ドメイン・ページで送信できなかったメールを管理者に通知するを有効にした場合に限りです）。これが、デフォルトの設定です。

発信者

送信できなかったメールの通知を、メッセージの発信者に送ります。迷惑メール（スパム）対策をするときは、このオプションを指定してください。

特定の宛先

送信できなかったメールの通知を、指定の電子メールアドレスに送ります。

メーリングリストの管理

モデレータの介入が必要

メーリングリストへの**加入**や**脱退**にモデレータが介入します（加入、脱退はモデレータの許可が必要になります）。

チェックされていないときは、メールクライアントを使って、メール本文に SUBSCRIBE または UNSUBSCRIBE だけを書いたメールを「メーリングリスト名-request」宛に送信すると誰でも加入、脱退ができます（例：users-request@mudomain.com）。

これらのコマンドについては、「5.4 メーリングリスト・プロセッサのコマンド」(p.78) をご覧ください。

モデレータ

この欄には、モデレータの電子メールアドレスを指定します。

ポストできるのは

この各ラジオボタンを使って、リストにメッセージをポストできるユーザを、以下の 3 種類から選択できます。

誰でも

リストには、誰でもメッセージをポストできます。

メンバー

メンバーだけがポストできます（デフォルト）。

モデレータ

モデレータしかポストできません。

メンバー

この部分には、メーリングリスト中のすべてのアドレスが、アルファベット順にソートされ、表示されます。どれか 1 つを選択し、「削除」をクリックすると、そのアドレスがリストから削除されます。

ファイルから入力、ファイルに保存

テキスト・ファイル中のリストを、別ファイルから入力できます。ファイルの各行には、電子メール・アドレスを 1 つ記述します。# で始まる行は無視されます。「ファイルから入力」ボタンを押すと、「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。また、現在表示されているメンバーをファイルに保存できます。「ファイルに保存」ボタンを押すと「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。保存するファイル名を指定して「OK」ボタンを押してください。

ファイルから入力する場合、そのファイルはテキスト形式で 1 行に 1 メールアドレスを記述してください。AT-MailServer は、ファイルの終了を検出してファイルからの入力を終了します。

新規メンバーの追加：

ボックスにアドレスを入力し、「追加」ボタンを押すと、そのアドレスがリストに追加されます。

返信先 (Reply-to) をリスト宛にする

このボックスをチェックすると、メーリングリストからのメッセージには Reply-to: ヘッダ・フィールドが追加され、メッセージへの返事が、メーリングリストに送信されるようにされます。

ただし、メーリングリストに向けて送信されたメッセージにすでに Reply-to ヘッダがある場合は例外で、その Reply-to: フィールドはそのまま残され、新しく Reply-to: フィールドが付加されることはありません。

1.8 「別名の設定 宛先の別名」ページ

別名の宛先を利用して、メールを転送するよう AT-MailServer を設定できます。

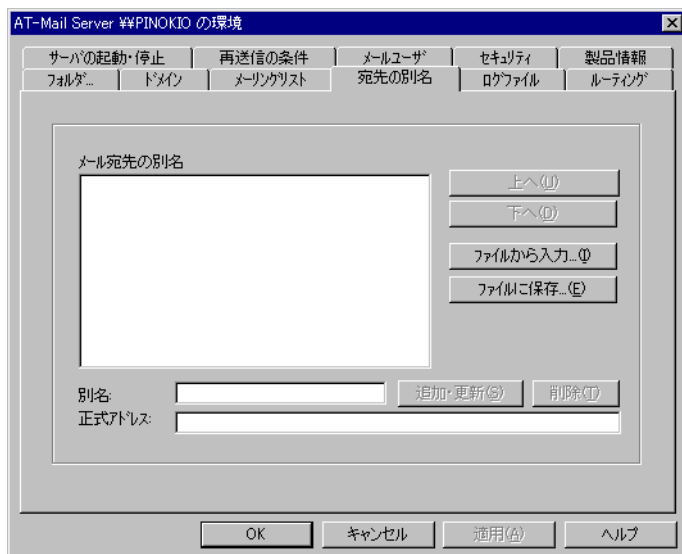


図 1.8.1

ローカル・メールユーザ宛てのメッセージを AT-MailServer が処理する場合、AT-MailServer はアドレスの名前を「メール宛先の別名」変換表に照らして検査します。一致する項目が見つかった場合、メッセージは変換表で指定された転送先のアドレスに送られます。

別名の作成

「正式アドレス」欄に入力したメールアドレスの別名を「別名」欄に入力して、「追加・更新」ボタンをクリックしてください。

例えば、正式なアドレスが J.Smith@abc.xyz.com であり、別名として jane を入力すると、jane@thismachine.mycompany.com¹ へのメッセージはすべて、J.Smith@abc.xyz.com に送信されます。jane という名前の AT-MailServer メールユーザが実際に存在する必要はありません。

ただし、別名に対して他の別名を指定すること（入れ子）はできません。例えば、jane に対して更に他の別名 smith を指定することはできません。

別名の削除

リスト・ボックスから別名を選択し、「削除」ボタンをクリックします。



1. ここで thismachine.mycompany.com は、Windows マシンの名前であるか、またはドメイン・ページで仮想ドメイン・テーブルの一覧に記述されている必要があります

ワイルドカードによる別名

「別名」はワイルドカード(*)を使用できます。ワイルドカードは、パターンに一致するすべての名前のメールを転送する場合に使用します。例えば、T*Y は、Tony、Tiny、toby、terryなどに一致します。大文字小文字は同一視されます。

また、本来の「正式アドレス」欄の最初の文字に、ワイルドカードを1文字使用できます。このワイルドカード文字は、表のエントリが使用される場合に、もとのアドレスの名前で置換されます。

例えば、別名が f* で本来の正式アドレスが *-blue@foo.com の場合、fargle@thismachine.mycompany.com へのメッセージは、fargle-blue@foo.com へと転送されます。

この機能を利用して、自分のマシン上のすべてのメールボックスへのメールを、他のマシンへと転送できます。別名には * を、本来の正式アドレスには *@thatmachine.mycompany.com を指定します。

変換表の順序

変換表中の順序は、大きな意味を持ちます。変換表は上から下に処理され、最初に一致した項目が使用されます。したがって、より詳細な項目(つまりワイルドカードをふくまない項目)を、よりリストの上部に配置し、汎用の項目(ワイルドカードをふくむ項目)を、リストの末尾近くに配置するようにします。項目を動かすには、「上へ」ボタン、または「下へ」ボタンを使用します。

複数ドメインのサポート

AT-MailServer により、2つ以上の組織にサービスを提供する場合(例えば xyz.com と abc.com とします) sales@xyz.com へのメールがローカル・ユーザ fred に届き、sales@abc.com へのメールがローカル・ユーザ jim に届くようにできます。これを実現するには、xyz.com と abc.com の両方をドメイン・ページの仮想ドメイン・テーブルに追加し、以下の別名項目を作成します(ただし、ドメイン・ネーム・サーバが正しく設定していなければなりません)。

```
sales@xyz.com fred
sales@abc.com jik
```

ワイルドカードによる別名を使用すると、この機能をより強力にできます。次の別名項目を考えてみます。

```
*@*.mycompany.com *
```

これにより、user@anything.mycompany.com へのメールは、すべてローカルの user のメールボックスに届きます。外向きのメールの From: ヘッダにさまざまなドメイン名がある場合に返信メッセージ処理するには、この方法が便利です。

「別名」欄に、名前なしで @domain 部分だけを記述すると、name@* と同じ意味になります。

ファイルからの入力、ファイルへの保存

別名のリストは、「ファイルからの入力」ボタン、および「ファイルへの保存」ボタンを利用することで、テキスト・ファイルから入力したり、テキスト・ファイルに出力したりできます。

ファイルの形式は、以下のように別名と正式アドレスを1行に1つずつ記述します。コロン「:」の前後それぞれに、スペースを1文字ずついれてください。

別名 : 正式アドレス

例

```
Greg:greg@host.domain  
Mike:mike@host.domain
```

1.9 「再送信の設定 再送信の条件」ページ

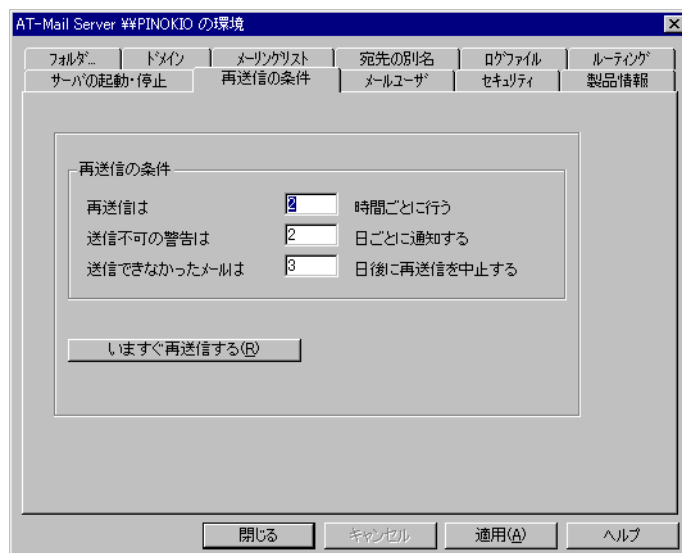


図 1.9.1

SMTP 送信サーバがメッセージをリモート・ドメインに配送できないとき、例えばそのドメインのメール・ホストがダウンしていたり、そのホストに、メッセージを受け取るに十分なディスク容量が残されていないなどの理由で、一時的にメールが受信できない場合があります。

こういった理由による一時的な遅れにより、メッセージが配送不能にならないように、SMTP 送信サーバはメッセージを保管しておき、後でメールの送信をやり直します。このページで設定された時間が経過してもメッセージがまだ送信できない場合に、初めて配送不能と判断されます。

再送信の条件は、SMTP 送信サーバが特定のドメインへにメッセージを再送信するパターンです。スケジュールは待ち時間のリストであり（最初に送信しようとした時刻からの分数で計ります）、その時間の経過後に、SMTP 送信サーバはメッセージの再送信を試みます。デフォルトでは、このパターンは10、10、100、10、10、100で始まります。この場合、最初の送信に失敗してから、SMTP 送信サーバは10分待ってから再送信を試み、さらに10分待ってから3度目の送

信を試みます。それから 100 分待ち、4 度目の送信を試みます（したがって、4 度目の送信は、最初の試みから 2 時間後となります）。以後、同様に続けられます。

再送信の結果、送信できなかったとき、SMTP 送信サーバは message delayed 警告を、問題のドメインにメッセージを送信しようとした発信者に送ります。再試行の条件には、いつこの警告メッセージを生成するかを指定します。

あるドメインへの試行を繰り返し、とうとう再試行スケジュールの最後に到達してしまった場合、そのドメインへのメッセージは配送不能として扱われます。

再送信の条件

再送信は [X] 時間ごとに行う

実際には、宛先のメール・サーバへの接続を、10 分ごとに 3 回試みます。この 3 回の再送信の試みを、ここで指定した時間ごとに繰り返します。（デフォルトでは 2 時間で、最低 1 時間、最長 24 時間です）。

送信不可の警告は [Y] 日ごとに通知する

ここでの指定日数が経過しても、メッセージが配送不能であると、message delayed の警告が発信者に送られます。（デフォルトでは 2 日で、最低 1 日、最長 2（次の欄で設定する）日です）。

送信できなかったメールは [Z] 日後に再送信を中止する

ここでの指定日数が経過しても、メッセージが配送不能であると、それは永久に配送不能なものとして扱われます。（デフォルトでは 3 日で、最低 1 日、最長 7 日です）。エラーとなったメッセージはその送信者に返送されます。

いますぐ再送信する

このボタンは、インターネットへの接続が断続的な場合、ダイヤルアップ接続などの場合に便利です。このような場合、SMTP 送信サーバの再試行スケジュールに一致した時期にダイヤルアップ接続が行われている可能性が低いからです。

このボタンは、再送信待ちのメッセージを、直ちに再送信します。ダイヤルアップ接続を確立してから、このボタンをクリックすると、これらのメールが送信されます。（WindowsNT において、リモート・マシン上のメール・サービスを管理する場合、再送信が行われるまで、2 分程度の遅れが生じる場合がありますので注意してください。）

「いますぐ再送信する」ボタンで開始された再試行は、再試行スケジュールの一部には数えられません。つまり、再試行スケジュールは、このボタンの影響を受けません。

すべての宛先ドメインに対して、再試行の条件は全部で 1 種類しか指定できませんが、それぞれのドメインに対して、再試行スケジュールは独立に実行されることに注意してください。

1.10 「ルーティング」ページ（経路制御）

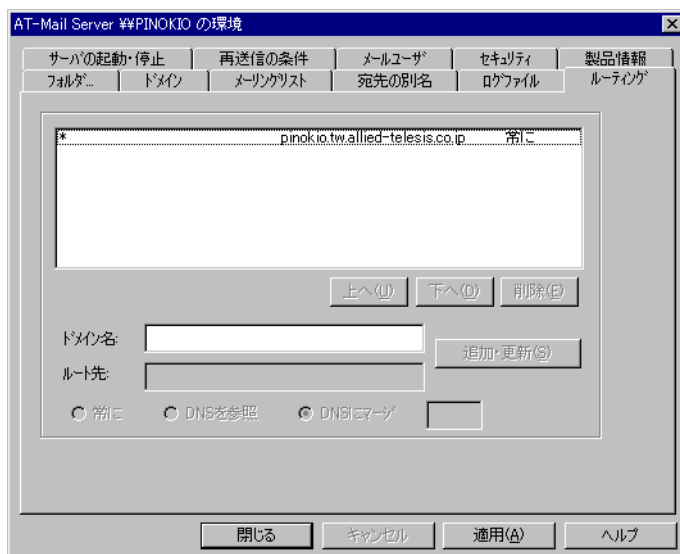


図 1.10.1

AT-MailServer は DNS の MX レコードを参照して、特定のドメインにメールを配送するために、どのホストに接続すればよいか判断します。しかし場合によっては、手動の経路制御情報で DNS を置き換えたり、補強したりする必要が生じることがあります。このルーティング・タブでは、手動で経路情報テーブルを設定できます。

AT-MailServer の手動経路制御テーブルは、各項目を順番に並べたもので構成されており、リストとして表示されます。各項目は、ドメイン、ルート先、および属性で構成されます。

項目の順番が大きな意味を持ちます。経路情報テーブルは上から下に処理され、最初に一致した項目が使用されます。そのため、より詳細な項目（つまりワイルドカードをふくまない項目）を、リストの上部に配置し、より汎用性の高い項目（ワイルドカードをふくむ項目）を、リストの末尾近くに配置します。項目を動かすには、「上へ」ボタン、および「下へ」ボタンを使用します。

ドメイン名

「ドメイン名」欄には、定義する経路の目的地となるドメインの名前を入力します。ドメイン名には1つ以上のワイルドカード（*）を使用できます。例えば *.comp.co.jp というドメイン名は、user@foo.comp.co.jp および user@bar.comp.co.jp の両方に一致します。ただしドメイン名中に @ 記号を使用してはいけません。経路制御は純粋にメール・ドメイン名にのみ依存し、ユーザ名に依存しないからです。

ルート先

「ルート先」欄には、目的のドメインへのメッセージを送るホストの名前を入力します。ルート先は、ホスト・マシンの完全な名前か、または IP アドレスです。

経路制御テーブルの項目の最後のコンポーネント（属性）は、DNS の返す情報と、手動の経路制御情報をどう関連づけるかを決定します。以下の3種類から選択できます。

常に

DNSは無視され、目的のドメインへのメッセージは、すべてここで設定した経路で送られます。

DNSを参照

DNSが目的のドメインへの経路情報を返さない場合に限って、ここで設定した経路を使用します。

DNSにマージ

手動で設定した経路情報を、DNSの返す経路情報と統合します。プリファレンス値を設定する必要があります。プリファレンス値は、正の値で、DNSの返す経路リストの中の、経路の相対位置を示します。通常、この設定は行いません。

1.11 「セキュリティ」ページ (ANTI-SPAM)

ドメイン名で配信するかどうかを判断したり、迷惑メールの拒否などを設定できます。

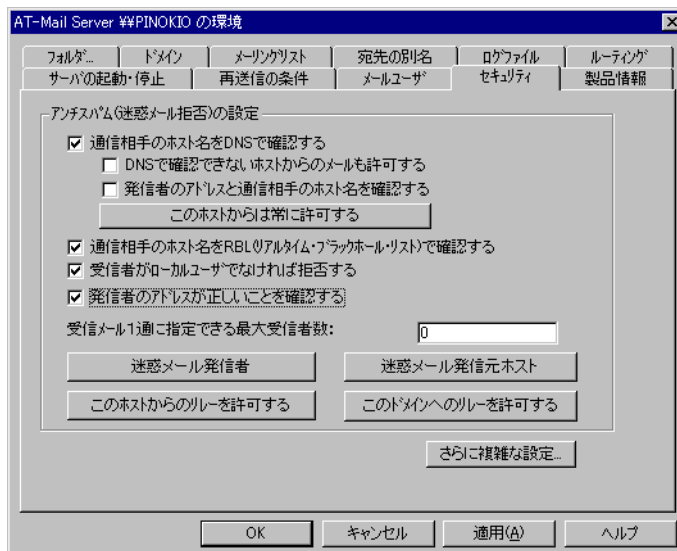


図 1.11.1

通信相手のホスト名をDNSで確認する

チェックされている場合:SMTPポート25に接続してきたホストのIPアドレスがDNSに登録されているかどうかを調べます。DNSに問い合わせた結果、SMTPコマンドのHELO/EHLOで指定されたホスト名と接続元のIPアドレスが一致しなければ、SPAMメールとみなします。

DNSで確認できないホストからのメールも許可する

チェックされている場合:上記のDNSで確認するがチェックされているときのみ有効です。SMTPポート25に接続してきたホストのIPアドレスがDNSに登録されていなくてもSPAMメールとみなしません。

発信者のアドレスと通信相手のホスト名を確認する

チェックされている場合:通信相手のホストが内部ネットワークに存在する場合、発信者のアドレスのドメイン部分が通信相手のホストと同じドメイン名であることを確認します。双方が同じドメイン名でないときは、SPANメールとみなします。通信相手のホ

ストが内部ネットワークに存在しない場合は、発信者のアドレスが内部ネットワークの通信相手のホストと同じドメイン名であるとき、SPAM メールとみなします。

この項目は「通信相手のホスト名を DNS で確認する」のチェックボックスがチェックされているときのみ有効になります。

このホストからは常に許可する

このボタンをクリックすると、「このホストからは常に許可」ダイアログが表示されます。このダイアログで入力するアドレスや「このファイルそのまま使用する」ラジオボタンで指定したファイルに記述するアドレスは、IP アドレスを使用します。ダイアログの操作方法については「スパムマスキリスト」(p.45) を参照してください。

このダイアログでホストを登録すると、登録したホストからのメールは、次のように扱われます（すべてをリレーします）。

- その IP アドレスが DNS に登録されていなくても SPAM メールとみなしません。
- 発信者のアドレスと通信相手のホスト名の確認をしません。

また、次の設定項目は無視されます。

- 「DNS で確認できないホストからのメールも許可する」チェックボックス
- 「発信者のアドレスと通信相手のホスト名を確認する」チェックボックス
- 「このホストからのリレーを許可する」ラジオボタンで設定した内容

実際にそのメールがリレーされるかどうかは、次の設定内容に依存します。

- 「通信相手のホスト名を RBL (リアルタイム・ブラック・リスト) で確認する」チェックボックス
- 受信者がローカルユーザでなければ拒否する」チェックボックス
- 「受信者のアドレスが正しいことを確認する」チェックボックス
- 「迷惑メール発信者」ボタンで設定した内容
- 迷惑メール発信元ホスト」ボタンで設定した内容
- 「このドメインへのリレーを許可する」ボタンで設定した内容

通信相手のホスト名を RBL (リアルタイム・ブラックホール・リスト) で確認する

チェックされている場合：SMTP ポート 25 に接続してきたホストの IP アドレスが、リアルタイムブラックホールリスト (Realtime Blackhole List:RBL) に登録されているかどうかを確認します。RBL に登録されている場合、そのホストからのメールを拒否します。RBL についての詳細は、<http://maps.vix.com/rbl> をご覧ください。

受信者がローカルユーザでなければ拒否する

この項目をチェックすると、次のように処理されます。

- 発信者のアドレスがローカルユーザでなく、さらに受信者のアドレスもローカルユーザでない場合、そのメールのリレーは「このドメインへのリレーを許可する」ボタンの設定内容に従います。「このドメインへのリレーを許可する」ボタンの設定が空欄であれば（デフォルト）、受信者がローカルユーザでなければそのメールは拒否されます。
- 発信者のアドレスがローカルユーザのときは、「このホストからのリレーを許可する」と「このドメインへのリレーを許可する」ボタンの設定内容に従います。

この項目をチェックしない場合は次の設定内容に従います。

- 「このホストからのリレーを許可する」ボタン
- 「このドメインへのリレーを許可する」ボタン

発信者のアドレスが正しいことを確認する

チェックされている場合：SMTP コマンドの MAIL FROM: のドメイン名部分が DNS に登録されていなければメール配信を拒否します。

受信メール1通に指定できる最大受信者数

チェックされている場合：SMTP コマンドの RCPT TO: で指定できる受信者の数の最大値を指定します。この数値を超えるメールは受信を拒否します。0は無制限を意味します。

迷惑メール発信者

迷惑メール発信元ホスト

このホストからのリレーを許可する

このドメインへのリレーを許可する

これらの4つの項目については、次の「スパムマスキリストの使用例」(p.46)をご覧ください。

更に詳細な設定

オンラインヘルプをご覧ください。

スパムマスクリスト

スパムマスクリストは、迷惑メール発信者、迷惑メール発信元ホスト、このホストからのリレーを許可する、このドメインへのリレーを許可する、の4つがあります。これらはすべて類似の画面で設定します。例として「迷惑メール発信元ホスト」を示します。



図 1.11.2

AT-Mail Server は、メールを受信したとき、ここに定義された一覧表に照らし合わせ、配信（送信）が許可されている場合にのみ、正常に受信動作を行います。

リスト欄に表示されるアドレスは、レジストリに記録されますので、レジストリ領域を節約するためにも、リスト欄に記述するアドレス数が多いときは、「このファイルをそのまま使用する」を利用することをお勧めします。

このファイルをそのまま使用する

ここで指定したファイルには、複数のアドレスやドメインを指定します。ひとつひとつ指定することが面倒な場合に利用すると便利です。

リストを直接指定する

ひとつひとつ指定する場合に利用します。

追加

左の欄に入力したアドレスをリストに追加します。

上へ

リスト内で選択したアドレスを一つ上へ移動します。

下へ

リスト内で選択したアドレスを一つ下へ移動します。

削除

リスト内で選択したアドレスを削除します。

全部削除

リスト内のアドレスをすべて削除します。

ファイルから入力

アドレスを記述したファイルの内容をリスト欄に取り込みます。

ファイルに保存

リスト欄のアドレスをファイルに保存します。

スパムマスキリスト書式 (ワイルドカード)

- スパムマスキリストは、ワイルドカード「*」¹またはCIDR形式(196.25.1.1/24)の指定ができます。

例

```
192.25.2.*
posy*.domain
*dom1.jp
```

- 「それ以外」を表す場合、先頭に「!」を記述します。

例

```
!posy*.domain
```

- CIDR形式とワイルドカード形式の混在はできません。
- 「迷惑メール発信者」のリストには、「!」マークは使用できません。
- 「この表題のメールを拒否する」²のリストには、否定の意味での「!」マークは使用できません。

スパムマスキリストの使用例^{3 4}

専用線で直接インターネットに接続している場合

known.troublemaker.com または spammer.com で終わる名前のホストからのメールのすべてを拒否します。*myco.com 以外からのメールは他のホストへリレー(転送)しません。

迷惑メール発信者

空欄(なにも指定しない)

迷惑メール発信元ホスト

```
*spammer.com
known.troublemaker.com
```



1. アスタリスク
2. この項目は、「さらに複雑な設定...」をクリックして表示されるダイアログにあります。
3. SP(Internet Service Provider)によっては、すでにSPAMメール対策を独自に実施していることがあります。その場合は、同じSPAM対策の設定となってしまうこともありえます。詳しくは、各ISPにお問い合わせください。
4. SPAM対策の設定をすると、メールを受信するたびにスパムマスキリストを読み込んだり、DNSに問い合わせするため、メールの送受信の処理に時間がかかることがあります。

このホストからのリレーを許可する

*myco.com

このドメインへのリレーを許可する

空欄 (なにも指定しない)

ISP を経由してメールを受信する場合

myco.com または myisp.com で終わるドメイン以外からのメールのすべてを拒否します。
123.123.123.* 以外の IP アドレスのマシンからはメールを外部に送信できません。

迷惑メール発信者

空欄 (なにも指定しない)

迷惑メール発信元ホスト

!*myco.com

!*myisp.com

*

このホストからのリレーを許可する

123.123.123.*

このドメインへのリレーを許可する

空欄 (なにも指定しない)

ISP を経由して特定のドメインと送受信する場合

thisisp.com または destination.com で終わるドメインとの送受信を可能にします。

迷惑メール発信者

空欄 (なにも指定しない)

迷惑メール発信元ホスト

空欄 (なにも指定しない)

このホストからのリレーを許可する

*thisisp.com

*destination.com

このドメインへのリレーを許可する

空欄 (なにも指定しない)

2 メールサーバ全体の管理

AT-MailServer で設定しているメールサーバ全体のディスク容量、警告メール、古いメールの自動削除を設定します。

2.1 メールサーバ全体のディスク容量の設定

メールサーバ全体の受信できるディスク容量を設定します。

- 1.WindowsNT 4.0 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。
- 2.AT-MailServer コントロールパネルの「フォルダ」タブをクリックします。



図 2.1.1

- 3 「ディスク管理...」ボタンをクリックします。以下の、「メールサーバ全体のディスク管理情報」ダイアログが表示されます。

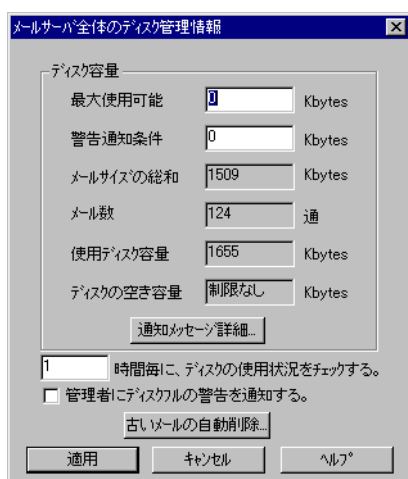


図 2.1.2

- 4 メールサーバ全体で使用するディスク容量、ディスクがいっぱいになったことを知らせる警告メールを配信するための限界容量、警告メールの通知メッセージ詳細、ディスク使用状況チェックの間隔、管理者への通知の有無を指定します。

ディスク容量

最大使用可能

メールサーバ全体で使用するディスク容量を指定します（単位：Kbytes）。デフォルトは0（無制限。ただし、物理的なディスク容量に依存します。指定できる最大値は4Tb（4,294,967,295 バイト）です）。

警告通知条件

警告メールの配信を実行するための制限値を指定します（単位：Kbytes）。デフォルトは0（警告通知しない）です。「最大使用可能」欄に設定した値の70%を目安として指定してください。また、「最大使用可能」>「警告通知条件」になるように指定します。

メールサイズの総和

保存しているメッセージが占有するディスク容量（単位：Kbytes）。

メール数

保存しているメッセージの総数（単位：通）。

使用ディスク容量

システムファイル等の管理情報を含めた使用中のディスク容量（単位：Kbytes）。

ディスクの空き容量

メールサーバが使用可能な、残りの空きディスク容量（最大使用可能容量 - 使用ディスク容量。単位：Kbytes）。「最大使用可能」欄に0を設定している場合、「制限なし」と表示します。

通知メッセージ詳細 ...

警告メールの通知メッセージのカスタマイズ時に使用します。「2.3 警告メールメッセージのカスタマイズ」(p.52)をご覧ください。

時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。

ディスク使用状況チェックの間隔を指定します(単位:時間)。デフォルトは1(1時間)です。

管理者にディスクフルの警告を通知する。

管理者への通知の有無を指定します。デフォルトでは、チェックされていません(管理者に警告メールを通知しません)。

古いメールの自動削除 ...

「2.4 古いメールの自動削除」(p.53)をご覧ください。

- 5 設定内容を確認し、良ければ「適用」ボタンをクリックして設定を終了します。ここで、「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。「ヘルプ」ボタンをクリックすると、オンラインヘルプを表示します。
- 6 これで、メールサーバ全体のディスク管理についての設定は完了です。

2.2 ディスク管理警告メール

警告メール

警告メールは、メールサーバ全体やユーザが使用を許可されたディスク容量が、ある一定の値に達したとき(警告通知条件)、または超えて(下回って)しまったとき、そのことをメールサーバの管理者や該当ユーザに知らせるために配信されます。

ディスク管理警告メールの種類

警告メールには、以下の4種類があります。

- ディスクフル警告検出
- ディスクフル警告解除
- ディスクフル検出
- ディスクフル解除

ディスク容量の警告通知条件に達したとき配信される警告メールを「ディスクフル警告」メール、許可されたディスク容量の最大使用量に達したときに配信される警告メールを「ディスクフル」メールと言うことにします(「ディスクフル警告」や「ディスクフル」の値を下回ったときにも、警告解除メールを配達します)。

メールサーバ全体の警告メールは、「フォルダ」ページ 「ディスク管理...」ボタン 「メールサーバ全体のディスク管理情報」ダイアログで「最大使用可能」欄や「警告通知条件」欄を設定して、配信するかどうかを指定することができます。

また、ユーザの警告メールは、「メールユーザ」ページ 「各ユーザ名」 「ディスク管理 ...」 ボタン 「ディスク管理情報」ダイアログで「最大使用可能」欄や「警告通知条件」欄を設定して、配信するかどうかを指定することができます。

メールサーバ全体とユーザ毎の、ディスク容量の設定の組み合わせにより、メール受信時の動作が異なります。詳細は、次の「メールサーバ全体とユーザごとの制限値の関係」(p.51)をご覧ください。

メールサーバ全体とユーザごとのディスク容量の関係

各ユーザごとのディスク容量での設定値の総和がメールサーバ全体での設定値と等しくなる必要はありません。あるユーザに新しいメールが配達されたとき、以下のように動作します。

- メールサーバ全体でのメールサイズの総和がメールサーバ全体での設定値(「最大使用可能」、または「警告通知条件」の設定値)に達した場合、管理者 (Postmaster) に警告メールが通知されます。
- ユーザのメールサイズの総和がユーザ毎での設定値(「最大使用可能」、または「警告通知条件」の設定値)に達した場合、そのユーザと管理者 (Postmaster) に警告メールが通知されます(管理者への警告メールは、「管理者にディスクフルの警告を通知する」チェックボックスにチェックしてあるときのみ配送されます)。

メールサーバ全体とユーザごとの制限値の関係

表 2.2.1

メールサーバ全体 ^a	ユーザ毎	メール受信時の動作
設定済	設定済	システム全体のディスク制限値をチェックしたあと、ユーザ毎のディスク制限値をチェックする。
設定済	未設定	システム全体のディスク制限値をチェックする。ユーザ毎の通知メールは配信しない。
未設定	設定済	パソコンの物理的なディスク容量をシステム全体のディスク制限値とみなしてチェックしたあと、ユーザ毎のディスク制限値をチェックする。メールサーバ全体用の通知メールは配信しない。
未設定	未設定	パソコンの物理的なディスク容量をシステム全体のディスク制限値およびユーザ毎のディスク制限値とみなしてチェック。ユーザ毎、メールサーバ全体用の警告メッセージはどちらも配信しない

a. 設定済は「最大使用可能」または「警告通知条件」の設定値が1以上。未設定は「最大使用可能」または「警告通知条件」の設定値が0。



注 AT-MailServer は、各メッセージのサイズを 1Kb 単位で切り上げて計算します。このため、実際のメッセージの総バイト数と、ダイアログに表示されるメッセージサイズが一致しないことがあります。各ディスク容量(「最大使用可能」および「警告通知条件」)は、余裕をもった値に設定するようお勧めします。

2.3 警告メールメッセージのカスタマイズ

警告メールのデフォルトのメッセージを使わず、独自のメッセージ内容に変更したいときには、次のように設定を行います。

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラマナージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「フォルダ」タブをクリックします。
- 3 「フォルダ」ページが表示されますので、「ディスク管理 ...」ボタンをクリックします。
- 4 「システム全体のディスク管理情報」ダイアログが表示されますので、「通知メッセージ詳細 ...」ボタンをクリックします。以下の「ディスク管理メッセージ」ダイアログが表示されます。

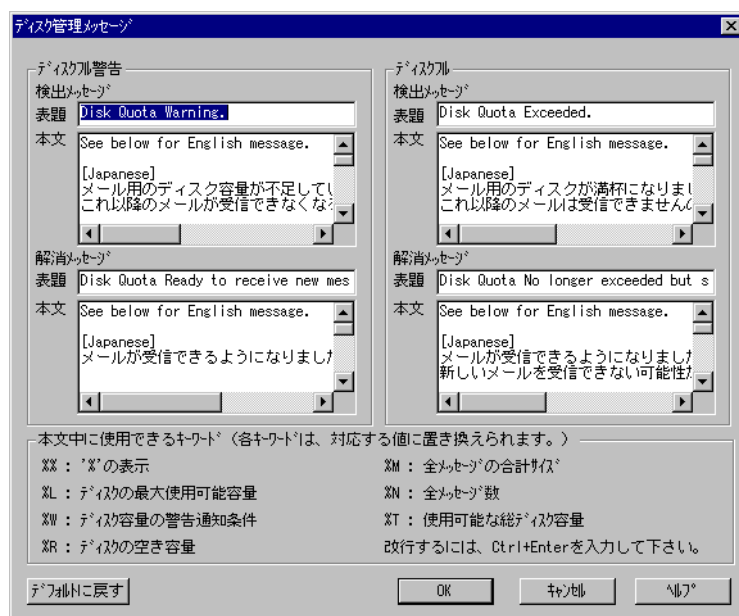


図 2.3.1

- 5 カスタマイズしたい項目欄に、文字を入力します。
「表題」欄には、Subject に設定する文字列を入力します。256 バイト（英数半角文字で 256 文字、全角文字で 128 文字）まで入力可能です。配信されるメールには、この欄に入力した表題の最初に、常に以下のヘッダーが添付されます。ただし、xxxxx はメールアドレス名です。
 - ユーザごとのディスク警告メール「User:xxxxx-」
 - メールサーバ全体のディスク警告メール「System:-」

「本文」欄には、メッセージ本文を入力します。2048 バイト（英数半角文字で 2048 文字、全角文字で 1024 文字）まで入力可能です。

メッセージには次のキーワードを使用することができます。各キーワードは該当ユーザに送信する際に、各数値に置き換えられます。メッセージ中で、改行する場合はCtrl+Enter を押します。また、メッセージの最終行にも Ctrl+Enter を入力してください。

表 2.3.1

キーワード	置き換えられる値
%%	パーセントの表示
%L	ディスクの最大使用可能容量
%W	ディスク容量の警告通知条件
%R	ディスクの空き容量
%M	全メッセージの合計サイズ
%N	全メッセージ数
%T	使用中の総ディスク容量 (システムファイルを含む)

- 6 メッセージ内容を確認し、良ければ「OK」ボタンをクリックして設定を終了します。
ここで、「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。「ヘルプ」ボタンをクリックすると、オンラインヘルプを表示します。
デフォルトのメッセージ内容に戻すときは、「デフォルトに戻す ...」ボタンをクリックします。このボタンを押すことにより、すべての項目がデフォルトのメッセージに戻りますので、ご注意ください。
- 7 これで、警告メールのカスタマイズは完了です。

2.4 古いメールの自動削除

メールボックスに保存したとき¹ から一定時間の経過したメールを自動的に削除するには、以下のように設定します。

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「フォルダ」タブをクリックします。
- 3 「フォルダ」ページが表示されますので、「ディスク管理 ...」ボタンをクリックします。
- 4 「システム全体のディスク管理情報」ダイアログが表示されますので、「古いメールの自動削除 ...」ボタンをクリックします。以下の「古いメールの自動削除」ダイアログが表示されます。



1. 「メールボックスに保存したとき」は、以下のいずれかの状況です。
 - ・メールを受信したとき
 - ・IMAP クライアントで IMAP4 の Append コマンド (RFC2060 をご参照ください) を使用して、メールをメールサーバ上のメールボックスに追加したとき

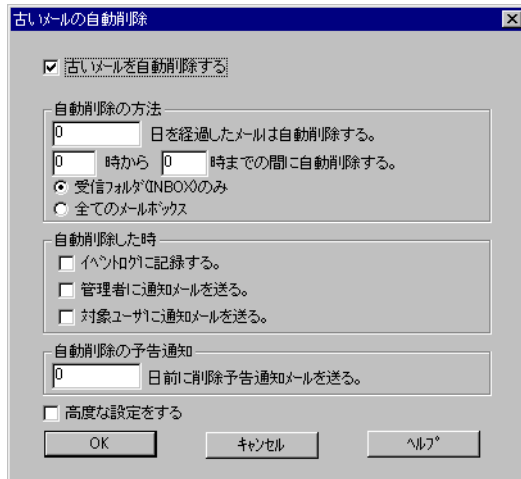


図 2.4.1

「高度な設定」チェックボックスをチェックすると、自動削除する前の削除予告通知メールの配信する機能の他に、以下の設定ができます。これらの機能に関して詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

- 自動削除の対象ユーザの限定（ディスク容量が不足しているユーザに限定）
- 自動削除の対象メールボックスの指定
- 自動削除予告通知メールのカスタマイズ
- 管理者宛て自動削除完了通知メールのカスタマイズ
- ユーザ宛て自動削除完了通知メールのカスタマイズ

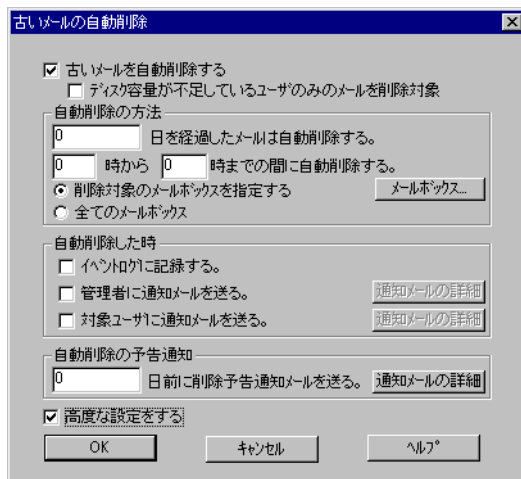


図 2.4.2

- 5 「古いメールを自動削除する。」チェックボックスにチェックします。デフォルトは 0 です（自動削除しない）。
- 6 「 日を経過したメールは自動削除する。」欄に、日数を入力します。指定可能な範囲は 0 ~ 24855 です。デフォルトは 0 です（削除しない）。

- 7 「時から 時までの間に自動削除する。」欄に、自動削除を実行する時間を 24 時間制で入力します。指定可能な範囲は 0 ~ 23 です。デフォルトは 0 時です（真夜中の 12 時）。詳細は、「2.6 自動削除の開始 / 終了時間とディスク使用状況のチェック時間」(p.57) をご参照ください。
- 8 「受信フォルダ (INBOX) のみ」または「全てのメールボックス」ラジオボタンをいずれかチェックし、どのフォルダを削除するかを指定します。デフォルトは「受信フォルダ (INBOX) のみ」です。¹
- 9 自動削除を実行したあと、実行させたいオプションがあれば指定します。オプションは、次のとおりです。
 - 「イベントログに記録する。」にチェックすると、自動削除した内容をイベントログに記録します。メッセージ例は付録 B に記載しています。
 - 「管理者に通知メールを送る。」にチェックすると、管理者へ自動削除した旨のメールを配送します。メッセージ例は付録 B に記載しています。
 - 「対象ユーザに通知メールを送る。」にチェックすると、自動削除したユーザに同様の警告メールを配送します。メッセージ例は付録 B に記載しています。
- 10 設定内容を確認し、良ければ「OK」ボタンをクリックして設定を終了します。ここで、「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。「ヘルプ」ボタンをクリックすると、オンラインヘルプを表示します。
- 11 「システム全体のディスク管理情報」ダイアログに戻りますので、確認し、「適用」ボタンをクリックします。
- 12 これで、古いメールの自動削除に関する設定は完了です。²



1. 自動削除対象のメールボックスは、全メールユーザ共通です。
2. 自動削除されたメールは、メールサーバから完全に削除されます。削除したメールを復旧する機能はありません。万が一のために、メールボックス全体（AT-MailServerコントロールパネルのフォルダページの受信メールフォルダで指定）のバックアップを取っておくよう強くお勧めします。

2.5 ディスクの使用状況と警告メール

メールサーバを起動するときには、常に、ディスクの使用状況が確認されます。そのあと、「メールサーバ全体のディスク管理情報」ダイアログの「 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする」欄で指定した時間が経過するたびに、ディスクの使用状況をチェックし、警告する必要がある場合は、警告（検出または警告解消）メールが配信されます。

表 2.5.1

以前の状態 ^a	今回の状態	警告メール配信	配信タイミング ^b
空き十分	空き十分	なし	-
	警告	あり	新メール保存時
	満杯	あり	新メール保存時
警告	空き十分	あり	指定時間経過後
	警告	あり	指定時間経過後
	満杯	あり	新メール保存時
満杯	空き十分	あり	指定時間経過後
	警告	あり	指定時間経過後
	満杯	あり	指定時間経過後

- a. 「空き十分」はメールサイズの総和が「警告通知条件」値未満。
「警告」はメールサイズの総和が「警告通知条件」値に到達。
「満杯」はメールサイズの総和が「最大使用可能」値に到達。
- b. 「新メール保存時」は、受信メールがあったとき、または IMAP クライアントで APPEND コマンド（RFC2060 を参照）を使ってメールをサーバのメールボックスへ追加したとき。
「指定時間経過後」は前回警告メールが通知されてから、ディスクの使用状況をチェックする時間が経過したとき。



「古いメールを自動削除する」チェックボックスがチェックされている場合、メールサーバは自動削除の開始時刻になったとき、ディスクの使用状況をチェックし、さらに自動削除を試みます。このため、ディスクの使用状況のチェック時間に 25 時間以上を設定した場合、その時間数を 24 時間の倍数に切り上げた時間が経過したとき、警告メールが通知されます。



各警告メールは、対象ユーザとメールサーバ管理者（Postmaster）に通知されません。対象ユーザの空きディスク容量が、警告メールのサイズよりも小さかった場合、警告メールは対象ユーザには配信されません。これに対し、メールサーバ管理者宛の警告メールは、警告状態や満杯状態は検出しますが、物理的にディスクに空きがある限り、配信されます。



ディスクの使用状況をチェックするには、IMAP サーバが動作していなければなりません。

2.6 自動削除の開始 / 終了時間とディスク使用状況のチェック時間

図 2.6.1 の「古いメールの自動削除」ダイアログの「 時から 時までの間に自動削除する。」欄の設定内容と、図 2.6.2「メールサーバ全体のディスク管理情報」ダイアログの「 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」欄の設定内容の関係について説明します。

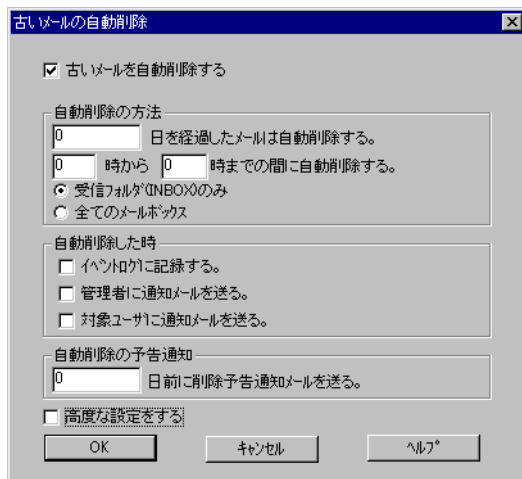


図 2.6.1

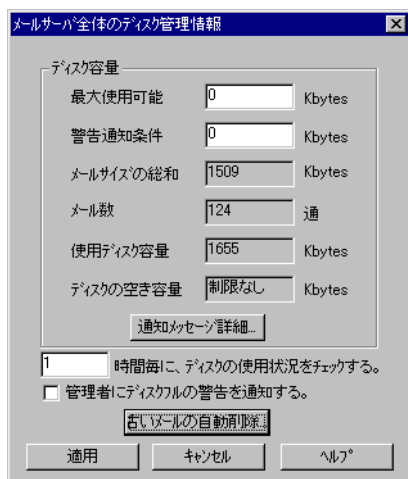


図 2.6.2

ここでは、「 時から 時までの間に自動削除する。」欄の設定値を「A 時から B 時までの間に自動削除する。」と仮定し、「 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」欄の設定値を「C 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」と仮定します。

「A 時から B 時までの間に自動削除する。」欄の時間が A B の場合

メールサーバは、毎日、ここで設定した A 時（開始時間）に自動削除を実行します。その後、C 時間が経過したとき（ディスク使用状況のチェック時間）その時間が A 時～B 時（自動削除の実行時間）の範囲であれば、メールサーバは再度自動削除を試みます。

C が 25 以上の値のときは、A 時でのみ自動削除およびディスク使用状況のチェックを行います。

例 1：

自動削除実行時間

「22 時から 9 時までの間に自動削除する。」

ディスク使用状況のチェック

「5 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」

自動削除を実行し、ディスク使用状況をチェックする時間

毎日 22 時、3 時、8 時（1 日 3 回）

例 2：

自動削除実行時間

「22 時から 9 時までの間に自動削除する。」

ディスク使用状況のチェック

「25 時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」

自動削除を実行し、ディスク使用状況をチェックする時間

毎日 22 時（1 日 1 回）

「A時からB時までの間に自動削除する。」欄の時間がA=Bの場合

メールサーバが起動されたときに、自動削除の試行と起動時ディスク使用状況のチェックを行います。その後はC時間が経過するたびに、自動削除やディスク使用状況のチェックを行います。

例3：

自動削除実行時間

「22時から22時までの間に自動削除する。」

ディスク使用状況のチェック

「5時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」

メールサーバが起動した時間

10時

自動削除を実行し、ディスク使用状況をチェックする時間

10、15時、20時、(翌日)1時、6時、11時・・・

例4：

自動削除実行時間

「22時から9時までの間に自動削除する。」

ディスク使用状況のチェック

「25時間毎に、ディスクの使用状況をチェックする。」

メールサーバが起動した時間

10時

自動削除を実行し、ディスク使用状況をチェックする時間

10時、(翌日)11時、(翌々日)12時・・・

なお、これらのすべての場合において、実際に自動削除されるメールは、この自動削除実行(試行)の時点で指定した経過時間に該当するメールのみです。

注 メールサーバを起動した時刻が、自動削除の開始時間～終了時間の範囲内である場合は、その時点で自動削除が試行されます。このとき、削除対象のメールは自動削除の警告が通知されずに削除されます。

注 ディスクの使用状況をチェックする、またはメールの自動削除を行うには、IMAPサーバが動作していません。

注 とても古いメールを削除対象でないメールボックスから削除対象のメールボックスへ移動したとき、自動削除の警告メールが通知されずに削除されます。

3 ディスク容量の設定

3.1 ユーザ毎のディスク容量設定方法

ユーザ毎のディスク容量の設定方法には、2通りあります。一人ずつ設定する方法と、複数のユーザをまとめて設定する方法です。

個別に設定する方法

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
以下の、AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。

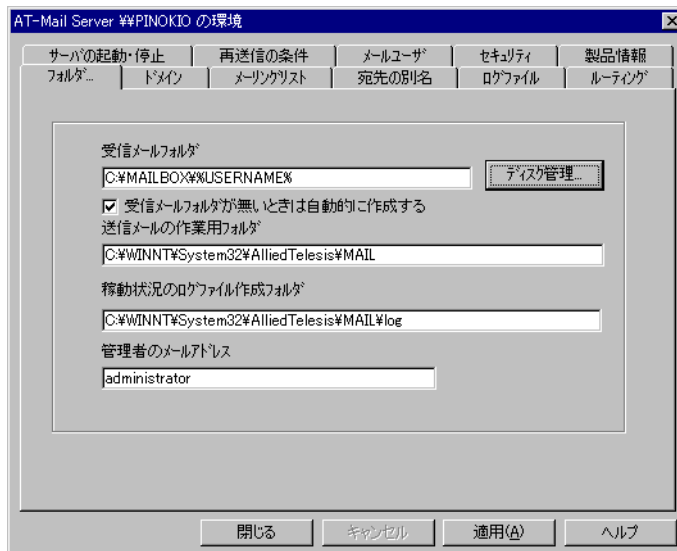


図 3.1.1

- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「メールユーザ」タブをクリックします。以下のメールユーザページが表示されます。

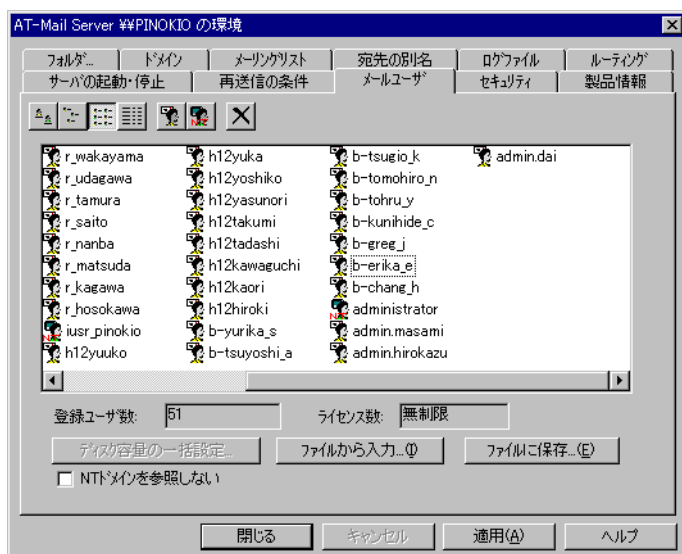


図 3.1.2

- 3 リストの中から、設定するユーザのユーザ名をダブルクリックします。以下の、「メールユーザ」ダイアログが表示されます。



図 3.1.3

- 4 「ディスク管理」ボタンをクリックします。以下の、「xxxxx のディスク管理情報」ダイアログが表示されます。xxxxx には、ユーザ名が自動的に表示されます。



図 3.1.4

- 5 該当ユーザに許可するディスク容量と、ディスクがいっぱいになったことを知らせる警告メールを配信するための限界容量を指定します。詳細は、「2.5 ディスクの使用状況と警告メール」もご参照ください。

最大使用可能

ディスク容量を指定します(単位: Kbytes)。デフォルトは0です(無制限。ただし、メールサーバ全体のディスク容量に依存します)。

警告通知条件

警告メールの配信を実行するための制限値を指定します(単位: Kbytes)。デフォルトは0です(警告通知しない)。「最大使用可能」欄に設定した値の70%を目安として指定してください。また、「最大使用可能」>「警告通知条件」になるように指定します。

その他の欄には、以下の情報が表示されます(入力できません)。

メールサイズの総和

保存しているメッセージが占有するディスク容量(単位: Kbytes)。

メール数

保存しているメッセージの総数(単位: 通)。

使用ディスク容量

システムファイル等の管理情報を含めた使用中のディスク容量(単位: Kbytes)。

ディスクの空き容量

該当ユーザが使用可能な、残りの空きディスク容量(最大使用可能容量 - 使用ディスク容量。単位: Kbytes)。「最大使用可能」欄に0を設定している場合、「制限なし」と表示します。

- 6 設定内容を確認し、良ければ「適用」ボタンをクリックして設定を終了します。ここで、「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。「ヘルプ」ボタンをクリックすると、オンラインヘルプを表示します。

7 これで、設定は完了です。

まとめて設定する方法

- 1 WindowsNT 4.0 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。
- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「メールユーザ」タブをクリックします。以下のメールユーザページが表示されます。

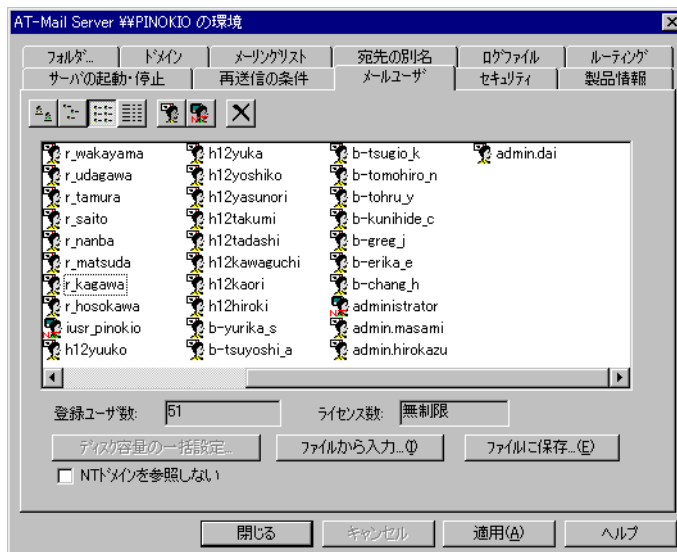


図 3.1.5

- 3 指定するユーザのユーザ名をクリックして選択します。複数のユーザを指定する場合は、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらクリックします。複数ユーザを指定を指定した場合、以下のような画面になります。

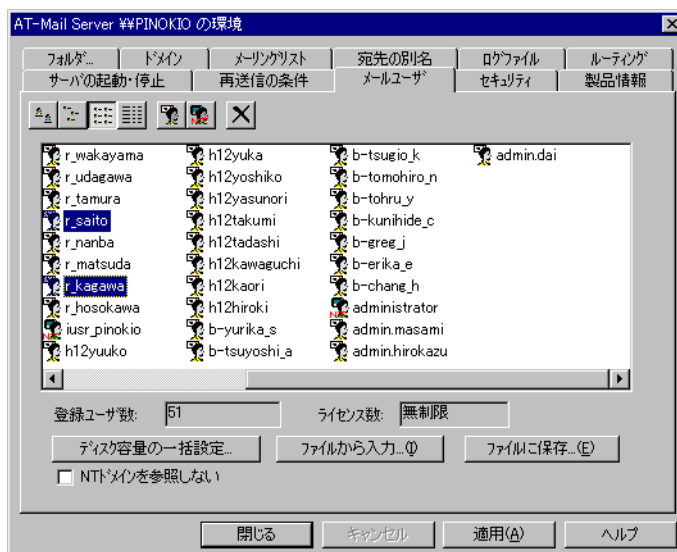


図 3.1.6

- 4 「ディスク容量の一括設定 ...」ボタンをクリックします。以下の、「ディスク容量の一括設定」ダイアログが表示されます。

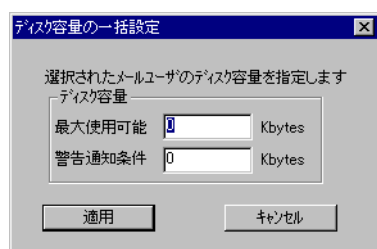


図 3.1.7

- 5 ユーザに許可するディスク容量と、ディスクがいっぱいになったことを知らせる警告メールを配信するための限界容量を指定します。詳細は、「2.5 ディスクの使用状況と警告メール」もご参照ください。

最大使用可能

ディスク容量を指定します（単位：Kbytes）。デフォルトは0（無制限。ただし、メールサーバ全体のディスク容量に依存します）です。

警告通知条件

警告メールの配信を実行するための制限値を指定します（単位：Kbytes）。デフォルトは0（警告通知しない）です。「最大使用可能」欄に設定した値の70%を目安として指定してください。また、「最大使用可能」>「警告通知条件」になるように指定します。

- 6 設定内容を確認し、良ければ「OK」ボタンをクリックします。「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。
- 7 これで、設定は完了です。



各ユーザごとのディスクの使用状況（最大使用量に達していないか、警告条件を超えていないか）は、AT-MailServer コントロールパネルの「メールユーザ」ページで、メールユーザ名をダブルクリックして確認できます。

4 共有メールボックスの管理

4.1 共有メールボックスについて

自分以外の複数ユーザがアクセス可能なメールボックスを「共有メールボックス」と呼びます。共有メールボックスを使用するには、IMAP4 に対応し、共有メールボックスをサポートしたメールクライアントが必要です。共有メールボックスの実装方法については、RFC2086 (IMAP ACL Extension) に準拠しています。

4.2 メールボックスの基本操作

共有メールボックスとして使用するための設定を行うためには、メールボックスをあらかじめ作成しておくことが必要です。まず、ここで、メールボックスの作成、名称変更、削除の方法について説明します。

新規作成

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
以下の、AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。

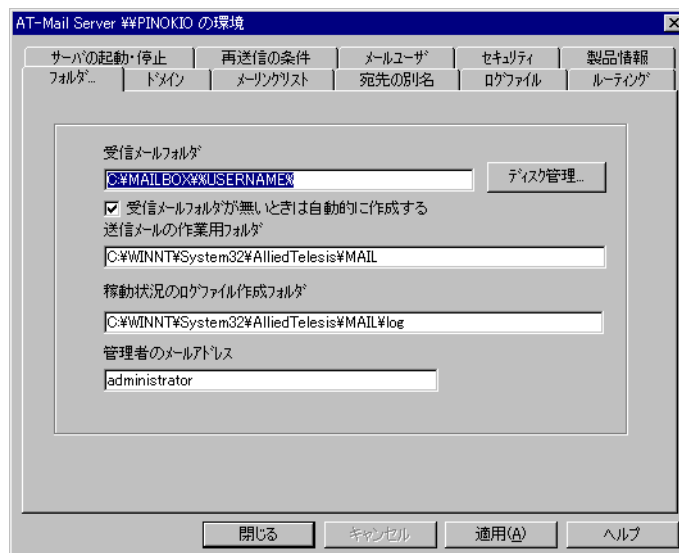


図 4.2.1

- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「メールユーザ」タブをクリックします。以下のメールユーザページを表示します。

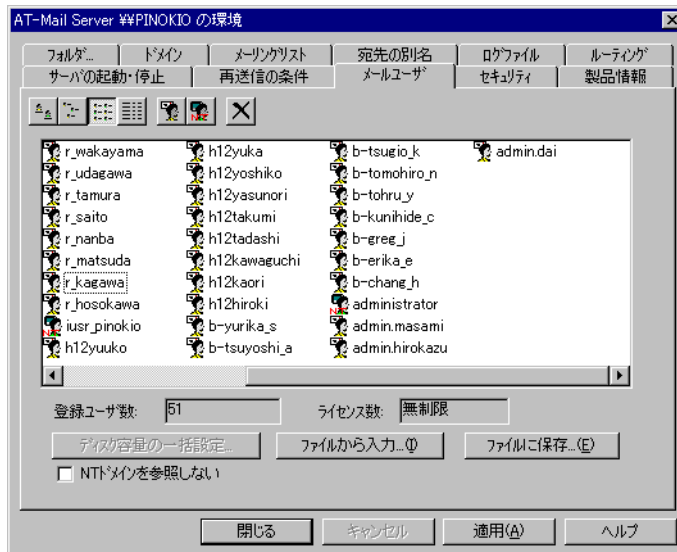


図 4.2.2

- 3 メールユーザのリスト一覧から、共有メールボックスを新設するユーザの名前をダブルクリックします。以下の、「メールユーザ」ダイアログが表示されます。



図 4.2.3

- 4 「メールボックスの操作 ...」ボタンをクリックします。以下の、「xxxxx のメールボックス一覧」ダイアログが表示され、その時点で存在するメールフォルダが一覧表示されます。xxxxx には、ユーザ名が自動的に表示されます。



図 4.2.4

- 5 「作成」ボタンをクリックします。
- 6 「New Mail Box」というフォルダが反転表示されます。この反転表示されている部分に、メールボックスの名称（例：掲示板）を入力し、Enter キーを押して確定します。
- 7 これで、新規メールボックスの作成は完了です。

名称変更

既存のメールボックスの名称を変更するには、次のように設定します。

- 1 「メールボックスの操作 ...」ボタンをクリックします。以下の、「xxxxx のメールボックス一覧」ダイアログが表示されます。xxxxx には、ユーザ名が自動的に表示されます。



図 4.2.5

- 2 名称変更するフォルダをリストからクリックして選択します。

- 3 「名前の変更」ボタンをクリックします。
- 4 変更するフォルダのフォルダ名が反転表示に変わり、入力できるようになります。変更後のフォルダ名を入力します。



図 4.2.6

- 5 Enter キーを押し、確定します。
- 6 これで、既存メールボックスの名称変更は完了です。



メールボックスの途中の名前は変更できません。名前がリストの最後になっているメールボックスを指定してください。

例：「MyMbx/Mbx2/SybMbx」という名称のメールボックスの、「Mbx2」を「Mbx3」に変更する場合は、「MyMbx/Mbx2」と表示されているリストを選びます。

削除

既存のメールボックスの削除を実行するには、次のように設定します。

- 1 「メールボックスの操作 ...」ボタンをクリックします。以下の、「xxxxx のメールボックス一覧」ダイアログが表示されます。xxxxx には、ユーザ名が自動的に表示されます。



図 4.2.7

- 2 削除するフォルダをリストからクリックして選択します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
- 4 削除して良いかどうかを確認するダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして削除を実行します。

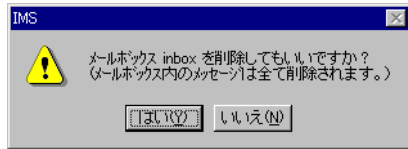


図 4.2.8

- 5 これで、既存メールボックスの削除は完了です。

注 メールボックスを削除すると、そのメールボックスに保存されていたメールも削除されます。

4.3 共有メールボックス

メールボックスの共有化、また共有メールボックスの設定内容の変更方法を説明します。



共有するユーザは、AT-MailServer に登録された NT メールユーザまたは一般メールユーザです。インターネットで使用される電子メールアドレス (username@host.domain) では共有できません。

メールボックスの共有化

- 1 共有化したいメールボックス (例: 掲示板) をクリックし、「共有設定 ...」ボタンをクリックします。以下の、「メールボックスの共有設定」ダイアログが表示されます。

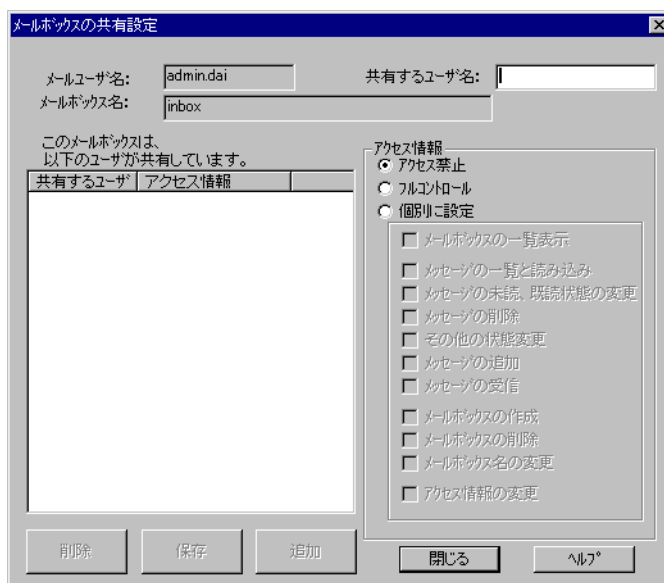


図 4.3.1

- 2 「共有するユーザ名:」欄にメールボックスにアクセスを許可するユーザ名を入力し、「追加」をクリックしてください（複数のユーザの登録は、ひとりずつ追加します）。全てのユーザに同一のアクセス権を設定する場合は、「anyone」と入力します）。

アクセス情報

この共有ユーザにどの範囲までの挙動を許可するか、指定します。「フルコントロール」または「個別に設定」ラジオボタンのいずれかをクリックします。

アクセス禁止

アクセスをさせないユーザを明示的に指定するときに使用します。デフォルトは「アクセス禁止」です。

フルコントロール

以下の「個別に設定」にリストされた内容全てを、手順 2 で設定した共有ユーザに許可することになります。

個別に設定

次の条件が表示されます。この条件をチェックして選択した内容は、左のリストの「アクセス情報」項目にキーワードで表示されます。

表 4.3.1

画面表示	キーワード	意味
メールボックスの一覧表示	l	メールボックスの一覧表示でこの共有フォルダ名も表示させる。
メッセージの一覧と読み込み	r	このメールボックスを選択し、読み込み・参照ができる。
メッセージの未読、既読状態の変更	s	メッセージの未読、既読状態の変更ができる。
メッセージの削除	d	メッセージの削除ができる。
その他の状態変更	w	メッセージのその他の状態の変更（上記 s、d 以外）ができる。
メッセージの追加	i	メッセージを追加できる。
メッセージの受信	p	メッセージをポストできる（IMAP4 では意味なし）。
メールボックスの作成	c	新たなメールボックス(サブフォルダ)の作成ができる。
アクセス情報の変更	a	アクセス情報の設定、変更ができる。
メールボックスの削除	0（ゼロ）	メールボックスが削除できる。
メールボックス名の変更	1（イチ）	メールボックスの名称を変更できる。所有者以外が名称変更するには、上位のメールボックスのアクセス情報に「メールボックスの作成」と「メールボックス名の変更」の権限を設定する必要がある。

- 3 確認し、「保存」ボタンをクリックして保存します。

- 4 これで、共有メールボックスの作成は完了です。

アクセス情報の設定・変更

既存の共有メールボックスのアクセス情報を変更する場合は、以下のように設定します。

- 共有化したいメールボックス（例：掲示板）をクリックします。「メールボックスの共有設定」ダイアログが表示されます。



図 4.3.2

- 変更内容に応じて下記の操作を行います。複数のユーザに同一のアクセス権を設定するには、「共有するユーザ」欄のリストを「Ctrl」または「Shift」キーを使って選択したあと、アクセス情報を設定します。

- 共有するユーザを追加するときは、「共有するユーザ名:」欄に追加するユーザのユーザ名を入力し、「アクセス情報」欄を設定します。
- すでに共有するユーザとして設定しているユーザを削除する場合は、削除するユーザ名をリストの中からクリックして選択し、「削除」ボタンをクリックします。
- すでに共有ユーザとして設定しているユーザのアクセス情報を変更する場合には、変更するユーザ名をリストの中からクリックして選択し、「保存」ボタンをクリックし、「アクセス情報」項目を変更します。

- 変更を終了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。

- これで、共有メールボックスの変更は完了です。

5 メーリングリストの使用方法

AT-MailServer はメーリングリストをサポートしています。メーリングリストとは、複数のメールアドレスをグループ化し、名前をつけたものです。この章では、一般的なメーリングリストの作業の方法、メーリングリストの動作原理、およびメーリングリスト・プロセッサのサポートするコマンドについて説明します。

5.1 メーリングリストの運用

メールサーバに一般メーリングリストを作成する

「メーリングリスト」ページで新しい「一般メーリングリスト」を作成してください（ここでは foobar を仮定します）。メーリングリストの新規作成、設定については「1.7 「メーリングリスト」ページ」(p.30) をご覧ください。

一般メーリングリストへの加入・脱退要求

メーリングリスト「foobar」への加入は、メールユーザ（メールクライアント）が foobar-request@yourmachine.yourdomain 宛に「**SUBSCRIBE**」とだけ書いたメール（メッセージ）を送信します。脱退は、「**UNSUBSCRIBE**」とだけ書いたメールを送信します。「foobar-request」はメーリングリスト名に文字列「-request」を連結した名前、「yourmachine」はメーリングリストが設定されているサーバ名、「yourdomain」はサーバが属すドメインのドメイン名です。

加入メールメッセージ

```
SUBSCRIBE
```

脱退メールメッセージ

```
UNSUBSCRIBE
```

「モデレータの介入が必要」の項目がチェックされていない場合（「メーリングリストの管理」(p.35) 参照）、誰からの要求も受け付けられ、AT-MailServer は加入・脱退の成功または、失敗を知らせるメールを自動返送します。加入が成功した場合の返送メッセージは以下の通りです。

```
Welcome to the AlliedTelesis AT-Mail Mailing List Server at
yourmachine.yourdomain
> SUBSCRIBE
yourname@yourmachine.yourdomain has been added to the
foobar mailing list.
```

「モデレータの介入が必要」の項目をチェックした場合、要求はモデレータに転送されます。その場合の操作方法は、次の項をご覧ください。

モデレータ¹の介入による加入・脱退操作

メーリングリストを設定したときに「モデレータの介入が必要」の項目をチェックしている場合、メーリングリストへの加入や脱退の要求メッセージ「SUBSCRIBE」「UNSUBSCRIBE」は、モデレータに転送されます（ただし、モデレータ自身のメッセージは除きます）。

モデレータは要求を受け付けるかどうか判断し、加入を受け付ける場合は、「メーリングリスト」の「該当のメーリングリスト」に新しいメンバを追加してください。脱退を受け付ける場合は、該当メンバを削除してください。

または、モデレータは次の書式のメッセージだけを書いたメールを foobar-request 宛に送信してください²。「username@usercomputer.userdomain」は加入要求をしているユーザのメールアドレスです。

加入許可

```
SUBSCRIBE foobar username@usercomputer.userdomain
```

加入したアドレスとは違うメールアドレスで AT-MailServer からの応答メッセージを受信したい場合は、メールに Reply-to: ヘッダを付けるか、または上記の SUBSCRIBE コマンドの完全な書式を利用します。


脱退許可

```
UNSUBSCRIBE foobar username@usercomputer.userdomain
```

メールアドレスを変更した場合に、新しいメールアドレスで再加入する前にメーリングリストに加入している古いアドレスを外したいときには、以下の書式を使用します。

```
UNSUBSCRIBE foobar oldname@oldcomputer.olddomain
```

メーリングリストを削除する

「メールリスト」ページの該当のメーリングリストを選択して、削除ボタン  をクリックしてください。



1. moderator、メーリングリストの司会者または管理者。
2. この方法は、AT-MailServer の管理者とメーリングリストのモデレータが異なる場合に便利です。

5.2 メーリングリストのサブジェクト機能

文字列と連番の自動付与

メーリングリストには、一般メーリングリストと NT メーリングリストの 2 種類がありますが、その設定方法はどちらもよく似ています。

一般メーリングリストの設定方法

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
以下の AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。

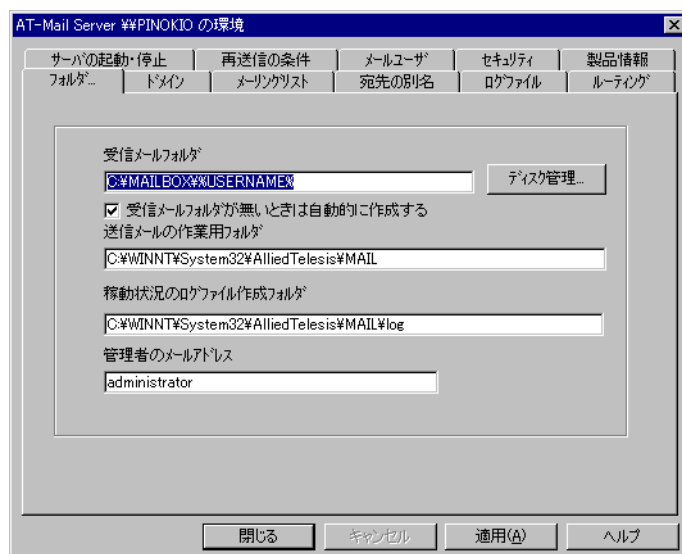


図 5.2.1

- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「メーリングリスト」タブをクリックします。以下の、メーリングリストページを表示します。

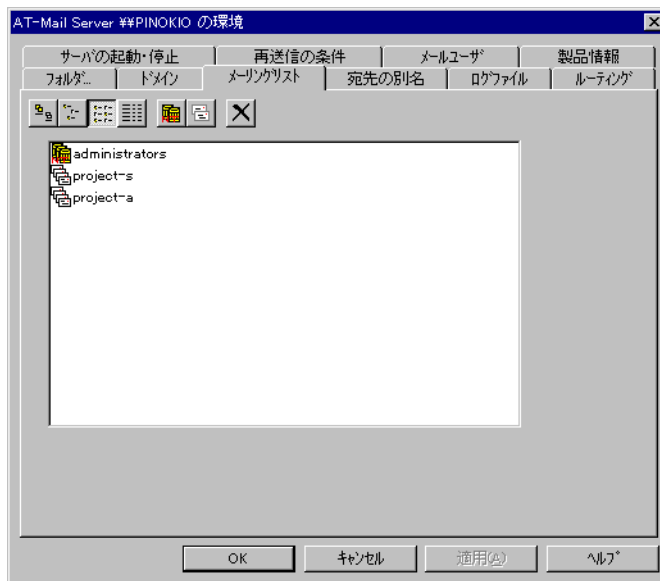


図 5.2.2

- 3 リストの中から、設定するメーリングリストを選択します。以下の、「一般メーリングリスト」ダイアログが表示されます。

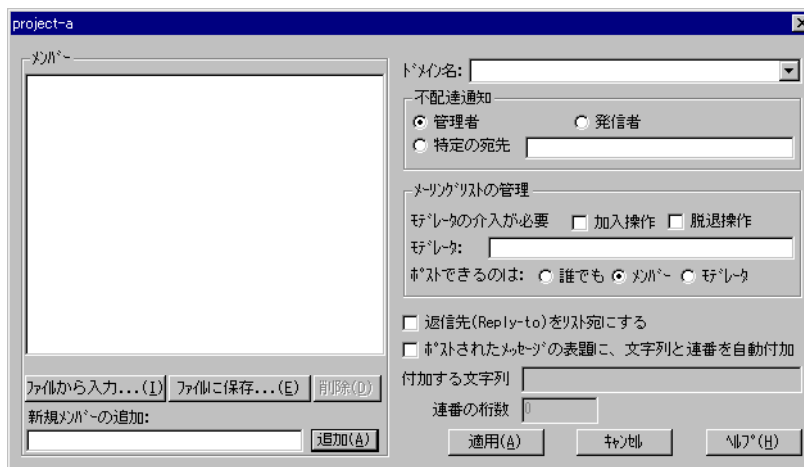


図 5.2.3

- 4 「ポストされたメッセージの表題に、文字列と連番を自動付加」チェックボックスにチェックします。デフォルトは、チェックしない状態（付加しない）です。
- 5 「付加する文字列」に、付加する文字列を入力します。英数半角文字のみ入力できます。128文字まで入力可能です。改行はできません。
文字列を指定するとき、連番を挿入したい場所に %d というキーワードを入力します。この指定は 1 か所のみ可能です。
文字列の中に % を使用したいときは、%% と入力します。
- 6 「連番の桁数」に、連番を何桁にするかをを入力します。0 ~ 10 までの数字で入力します（デフォルトは 0 桁。連番を付加しない）。文字列の中に %d のキーワードを指定しなかったと

き、連番は手順5で指定した「付加する文字列」欄の文字列の最後に挿入されます。
連番は、「0」番～「4294967295」番をサイクリックに使用します。「4294967295」番の次は、「0」番になります

- 7 確認し、良ければ「適用」ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- 8 これで、一般メーリングリスト宛メールの表題に、文字列と連番を付加するための設定は完了です。

NT メーリングリストの設定方法

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
- 2 AT-MailServer コントロールパネルの「メーリングリスト」タブをクリックします。
- 3 リストの中から、設定するメーリングリストを選択します。以下の、「NT メーリングリスト」ダイアログが表示されます。

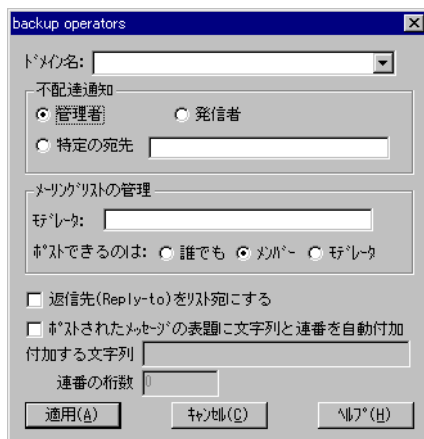


図 5.2.4

- 4 「ポストされたメッセージの表題に、文字列と連番を自動付加」チェックボックスにチェックします。デフォルトは、チェックしない状態（付加しない）です。
- 5 「付加する文字列」に、付加する文字列を入力します。英数半角文字のみ入力できます。128文字まで入力可能です。改行はできません。
文字列を指定するとき、連番を挿入したい場所に%dというキーワードを入力します。この指定は1か所のみ可能です。文字列の中に%を使用したいときは、%%と入力します。
- 6 「連番の桁数」に、連番を何桁にするかを入力します。0～10までの数字で入力します（デフォルトは0桁：連番を付加しない）。文字列の中に%dのキーワードを指定しなかったとき、連番は、手順5で指定した「付加する文字列」欄の文字列の最後に挿入されます。連番

は、「0」番～「4294967295」番をサイクリックに使用します。「4294967295」番の次は、「0」番になります。

- 7 確認し、良ければ「適用」ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- 8 これで、NT メールングリスト宛メールの表題に、文字列と連番を付加するための設定は完了です。

5.3 メールングリストの動作原理

- 1 SMTP 送信サーバが、送信先のドメイン名が自分自身の動作しているシステムのドメイン名（または仮想ドメイン・リスト中の名前のどれか）に合致するメッセージを受信した場合、SMTP 送信サーバは、そのメッセージをメールユーザ、またはメールングリストに配送しようとしています。
- 2 SMTP 送信サーバは、まず lists および lgroups ディレクトリを全て調べて、同じ名前のサブディレクトリがあるかどうか確認します。同じ名前のサブディレクトリがある場合は、メッセージは一時的にそのディレクトリに「配送」されます。同じ名前のディレクトリがない場合は、メッセージがメールボックスのいずれかであると判断します。（したがって、あるメールユーザと同じ名前のメールングリストがある場合は、メッセージはメールングリストに送られ、メールユーザには届かないことになります。）
- 3 SMTP 送信サーバは、メールングリストに「配送」されたメッセージを、リストの全てのメンバに送信することで「送出」します。
- 4 SMTP 送信サーバは、-request ディレクトリに配送されたメッセージ（一般のメールングリストの場合のみ）のコマンドを解析し、一時的なファイルを作成して、送信者に送り返します。

5.4 メーリングリスト・プロセッサのコマンド

メーリングリスト・プロセッサの理解するコマンドは、以下の通りです。

HELP

コマンドの説明を要求します。

JOIN [リスト名 [メールアドレス]]

SUBSCRIBE [リスト名 [メールアドレス]]

メーリングリストに加入します (上記の2つは同じものです)。

LEAVE [リスト名 [メールアドレス]]

UNSUBSCRIBE [リスト名 [メールアドレス]]

メーリングリストから脱退します (上記の2つは同じものです)。

STOP

コマンドの処理の終了を指示します。メッセージ本文に複数のコマンドを記述したとき、このコマンドまでをメーリングプロセッサに対するコマンドとみなします。

6 自動メール処理

AT-MailServer の自動メール処理機能は、メールユーザごとに設定します。自動メール処理機能には、自動返信、および自動転送機能があり、それぞれについて説明します。自動メール処理機能は、メールユーザ・ページで設定します。

6.1 自動返信機能

特定のメールユーザへのメッセージに AT-MailServer が自動的に応答するように設定できます。

例えば、休暇をとるユーザが、メールを送ってきたユーザに、休暇のあける日を知らせるメッセージを送り返すことができます。また、メール管理者として、以前所属していた社員宛のメールに対して、現在の新しい電子メールのアドレスの情報を送り返すこともできます。

特定のメールユーザに対する自動返信機能を設定するには、設定コンソールのメールユーザ・ページで、目的のメールユーザに対応するアイコンをダブルクリックして、メールユーザのプロパティ・ダイアログを表示させます。

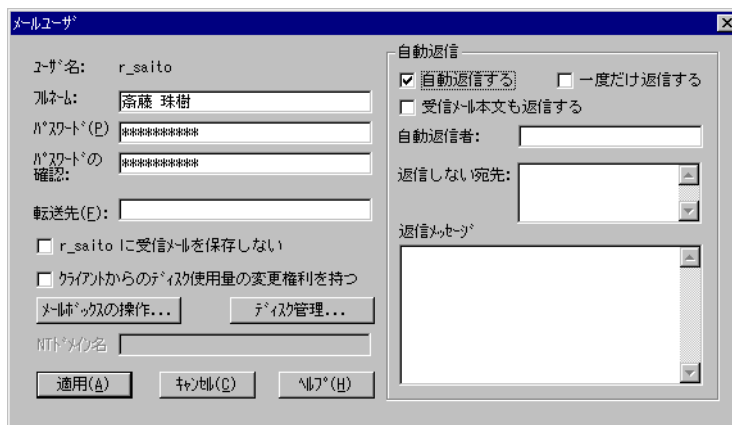


図 6.1.1

自動返信機能

このユーザにメールを送信してきたユーザに対して、自動でメッセージを返信する機能です。自動返信機能を使用するには以下の項目について設定する必要があります。

自動返信する

ここをチェックすると自動返信機能が使用できます。

一度だけ返信をする

ここをチェックすると同じ送信者に何通も返信メッセージがいかないようにします。

受信メール本文も返信する

ここをチェックすると、このユーザ宛に配送されたメールの内容も付けて返信されます。

自動返信者

自動返信する際に AT-Mail Server が From: に設定するためのメールアドレスを入力します。

返信しない宛先

自動返信をしないメールアドレスを設定します。(例えば、購読しているメーリングリストアドレスなど)

返信メッセージ

返信するメッセージの本文を入力します。テキストを改行する場合は Ctrl+Enter を押します。

設定例

休暇の場合の設定

メールの発信者それぞれに対して、状況を説明するテキスト本文の付いた返事が返信されず(指定したメーリングリストにはメッセージを送りません)。送られてきたメッセージは引用しません。

異動した社員に対する設定

メッセージが1通届くごとに、そのメッセージ送信者に対して、状況を説明するテキスト本文の付いた返事が送られます(指定したメーリングリストにはメッセージを送りません)。返事には、もとのメッセージを引用します。もとのメッセージは、このメールユーザのメールボックスに保存されません。

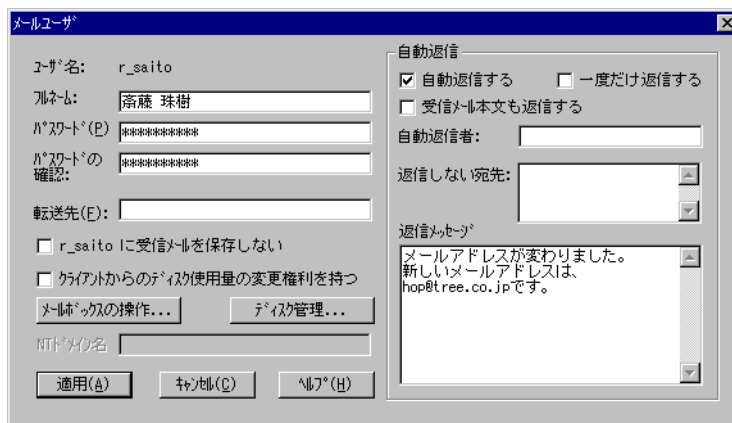


図 6.1.2

6.2 自動転送機能

メッセージを自動的に転送するように AT-MailServer を設定できます。自動転送機能は、メールユーザごとに、設定コンソールのメールユーザのプロパティ・ダイアログで設定します。

設定例

メールユーザ r_matsuda へのメッセージは、すべて cloud@airs.co.jp に転送されます。メッセージは、メールユーザ r_matsuda のメールボックスに保存されます。

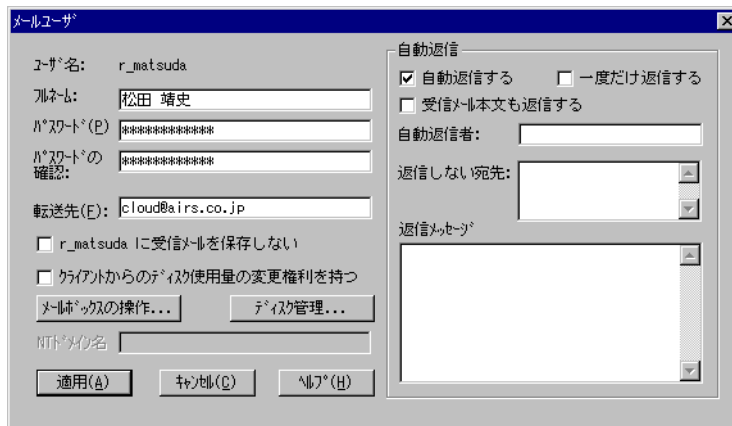


図 6.2.1

7 ログファイル

ログ記録機構は、AT-MailServer の動作状況を記録するための機構です。AT-MailServer は、3 種類のログ・カテゴリをサポートしています。サーバの稼働状況（サーバログ）、送受信メールの詳細状況（動作ログ） およびエラー情報（エラーログ）です。

- サーバの稼働状況では、サービスの起動と停止、あるドメインに再送信する手動コマンド、および設定の再読み込みなどの動作を記録します。
- 送受信メールの詳細状況では、ネットワーク接続の確立と切断、プロトコルの交換、および処理の概要を記録します。
- エラー情報では、プロトコルの構文 / シーケンス・エラー、失敗したプロトコル・コマンド、認証エラー、およびネットワーク、またはファイル入出力エラーを記録します。

各カテゴリごとに独立したログ・ファイルがあり、指定のログ・ディレクトリに作成されます。（各カテゴリのログ・ファイルに同じ名前を指定することで、ログを1つのファイルにまとめられます）。情報をログ・ファイルに書き込むだけでなく、アプリケーション・イベント・ログにも出力するよう設定できます。イベント・ログを調べるには、管理ツールプログラム・グループにあるイベント・ビューア・アプリケーションを使用します。

7.1 ログ採取の周期

ログ・ファイルは、コントロール・パネルで設定するログ・ディレクトリに作成されます。各カテゴリのログ・ファイルは、server.log、operate.log、および error.log です（これはデフォルトの設定であり、変更できます）。一定の期間ごとに（毎日、毎週、または毎月を指定できます）、ログ・ファイルは更新されます。具体的には、現在のログ・ファイルの名前が server.nnn、operate.nnn、および error.nnn に変更され、新しい .log ファイルが開始されます。nnn は、001、002 と続く順序番号です。

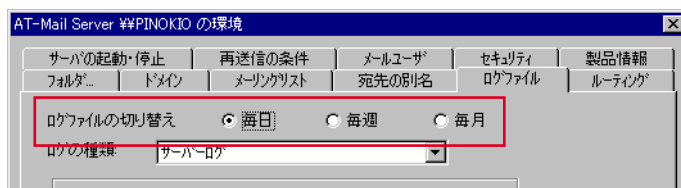


図 7.1.1

ログの更新は、深夜 0 時に行われます。毎週のログ更新を選択した場合、ログは土曜日の深夜 0 時（つまり日曜日の 00:00:00）に更新されます。毎月のログ更新を選択した場合、ログは各月の最終日の深夜 0 時（つまり新しい月の 1 日の 00:00:00）に更新されます。

注 サーバの稼働状況によっては、深夜 2 時など（00:00:00 よりも後）に更新されることがあります。

7.2 ログの種類

各ログ・カテゴリには、それぞれ設定可能なログ・オプションがいくつかあります。それぞれのオプションの意味を、以下で説明します。

オプションのいくつかは、必要に応じてNT イベント・ログにも記録できます。以下のリストでは、イベント・ログにも記録できるオプションには、アスタリスクが付いています。

サーバの稼働状況（サーバログ）



図 7.2.1

サーバの起動・停止

サービスのどれかが起動、または停止したときに、サーバ・ログ・ファイルに記録されます。

再送信

SMTP 送信サーバに、すべてのドメインに直ちに再送信するよう指示した場合に、サーバ・ログ・ファイルに記録されます。

設定情報の変更

サービスが、動的に設定情報を再読み込みした場合に、サーバ・ログ・ファイルに記録されます。

送受信メールの詳細状況（操作ログ）



図 7.2.2

プロトコルコマンド

送受信したすべてのSMTP、POP3 および IMAP4 コマンドが、オペレーション・ログ・ファイルに記録されます。

受信メール本文

SMTP 受信サーバが受信したすべてのメッセージ・データを、オペレーション・ログ・ファイルに記録します。メッセージ・データ情報はシステム・メモリとディスク容量を大量に消費します。この項目は、障害を解析する必要上やむをえない場合を除いて、使用してはいけません。オンにしたまま運用しないでください。

送信メール本文

SMTP 送信サーバが送信するすべてのメッセージ・データをオペレーション・ログ・ファイルに記録します。受信メール本文の場合と同様、オンにしたまま運用しないでください。

受信状況

メッセージ受信の状況を、オペレーション・ログ・ファイル（およびアプリケーション・イベント・ログの両方、またはどちらか一方）に記録します。

送信状況

メッセージ送信の状況を、オペレーション・ログ・ファイル（およびアプリケーション・イベント・ログの両方、またはどちらか一方）に記録します。

ネットワーク接続

外部から、および外部へのネットワーク接続状況をオペレーション・ログ・ファイルに記録します。

DNS での参照

DNS の参照状況を記録します。パフォーマンスに大きな影響がありますのでオンにしたまま運用しないでください。

エラー情報 (エラーログ)

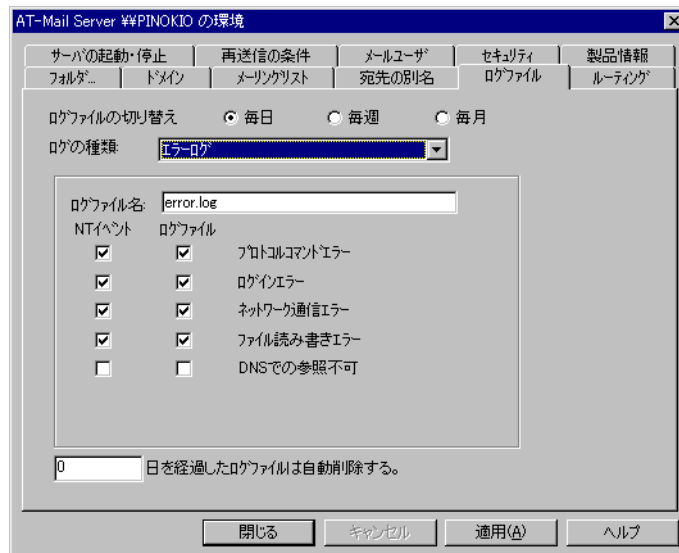


図 7.2.3

プロトコルコマンドエラー

SMTP、POP3 または IMAP4 コマンドとその応答 (受信、または送信されたものの両方) のうち、失敗したものをエラー・ログ・ファイルに記録します。

ログインエラー

POP3 または IMAP4 にログインしようとして失敗した場合に、エラー・ログ・ファイルに記録します。

ネットワーク通信エラー

ネットワーク通信に失敗したとき、エラー・ログ・ファイルに記録します。

ファイル読み書きエラー

ファイル読み書きに失敗したとき、エラー・ログ・ファイルに記録します。

DNS での参照不可

DNS で参照に失敗したとき、エラー・ログ・ファイルに記録します。

7.3 ログファイルの自動削除

ログファイルには、「サーバーログ」、「操作ログ」、「エラーログ」があります。ログファイルは時間の経過とともに増大し、ディスクを圧迫する要因となるため、定期的に整理する必要があります。ログファイルが作成されたあと、一定期間の経過した古いログファイルを自動的に削除するには、以下のように設定します。

- 1 WindowsNT 4.0/Windows 2000 の場合、「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択し、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
WindowsNT 3.51 の場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」の「コントロールパネル」を開き、「AT-Mail Server」をダブルクリックします。
以下の AT-MailServer コントロールパネルが表示されます。



図 7.3.1

- 1 AT-MailServer コントロールパネルの「ログファイル」タブをクリックします。以下の、ログファイルページを表示します。



図 7.3.2

- 2 「ログファイル」ページの「 日を経過したログファイルは自動削除する。」欄に、日数を入力します。指定可能な範囲は0 ~ 24855 です。デフォルトは、0 (自動削除しない) です。この欄に入力した日数は、全てのログファイルに共通に設定されますので、ご注意ください。
- 3 設定内容を確認し、「適用」ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンを押して終了します。
- 5 これで、ログファイルを自動削除するための設定は完了です。

注 サーバーログ、操作ログおよびエラーログのすべてのログファイルがここで指定した日数が経過したとき自動削除されます。

注 ログファイルの自動削除機能を使用するためには、SMTP 送信サーバが動作していません。

7.4 パフォーマンス・モニタの利用

AT-MailServer では、パフォーマンス・モニタを利用して、AT-MailServer のサービスの動的な状態を監視できます。パフォーマンス・モニタは、WindowsNT 標準ユーティリティです。パフォーマンス・モニタは、「管理ツール」にあります。パフォーマンス・モニタは、プログラム・グループ管理ツールから起動するか、またはコマンド・プロンプトから PERFMON コマンドで起動します。

AT-MailServer は、POP3S、SMTPDS、SMTPRS および IMAP4S の 4 つを監視オブジェクトとして提供します。AT-MailServer のパフォーマンス・オブジェクト、カウンタについて説明しています。

各オブジェクト (POP3S、SMTPRS、SMTPDS、IMAP4S) は、それぞれ、POP3 サーバ、SMTP 受信サーバ、SMTP 送信サーバ、IMAP4 サーバに対応しています。

各カウンタは、それぞれに対応したサーバが起動されたとき、0に戻ります。

注 サーバが停止しているとき、パフォーマンスモニタを起動すると、イベントビューワにエラーが記録されます。

POP3S オブジェクト

表 7.4.1

カウンタ名	説明
Total Connections	POP3 サーバに接続したクライアント数です。ログオンの成功・失敗に関わらず、すべての接続要求がカウントされます。
Active Connections	POP3 サーバに接続しているクライアント数です。現在の POP3 サーバの活動状況を表します。
Total logon failures	POP3 サーバにログオンできなかった接続要求数です。この値が異常に多い場合、システムに不正に侵入使用としている者のパスワード推定プログラムなどが、POP3 サーバに不正にログインしようとしている可能性があります。
Total Messages Retrieved	POP3 サーバがクライアントに送出したメッセージ数です。
Bytes Sent/Sec	クライアントからの読み込み要求に対して、POP3 サーバが送出したメッセージの 1 秒あたりのバイト数です。POP3 サーバのスループットを示します。

SMTPDS オブジェクト

表 7.4.2

カウンタ名	説明
Total Messages Sent	SMTP 送信サーバが送出したメッセージ数です。
Total Messages Delivered locally	SMTP 送信サーバが、自分の PC のメールユーザに配信したメッセージ数です。
Bytes Sent/Sec	SMTP 送信サーバが送出したメッセージの 1 秒あたりのバイト数です。SMTP 送信サーバのスループットを示します。
Currently Active Connections	メールを送信のために他のメールサーバに接続しているセッション数です。

SMTPRS オブジェクト

表 7.4.3

カウンタ名	説明
Total Messages Received	SMTP 受信サーバが受信したメッセージ数です。
Total Connections	SMTP 受信サーバに接続したセッション数です。メールクライアントからのメッセージの送信要求や他のメールサーバからのメッセージの転送要求を受け付けたときにカウントされます。
Active Connections	SMTP 受信サーバに接続しているセッション数です。現在の SMTP 受信サーバの活動状況を示します。
Bytes Sent/Sec	SMTP 受信サーバが受信したメッセージの 1 秒あたりのバイト数です。SMTP 受信サーバのスループットを示します。

IMAP4S オブジェクト

表 7.4.4

カウンタ名	説明
Total Connections	IMAP4 サーバに接続したクライアント数です。ログオンの成功・失敗に関わらず、すべての接続要求がカウントされます。
Active Connections	IMAP4 サーバに接続しているクライアント数です。現在の IMAP4 サーバの活動状況を示します。
Total logon failures	IMAP4 サーバにログオンできなかった接続要求数です。この値が異常に多い場合、システムに不正に侵入しようとしている者のパスワード推定プログラムなどが、IMAP4 サーバに不正にログインしようとしている可能性があります。
Total Commands Received	IMAP4 サーバが、IMAP4 クライアントから受信した IMAP コマンド数です。
Bytes Sent/Sec	クライアントからのコマンドに対して、IMAP4 サーバが送出した応答データのバイト数です。IMAP4 サーバのスループットを示します。

8 製品情報とライセンスの追加

8.1 製品情報 - 製品情報ページ

AT-MailServer をインストールするときに入力していただいたシリアル番号と認証キー、お客様のお名前と会社名、現在のユーザライセンス数が表示されます。

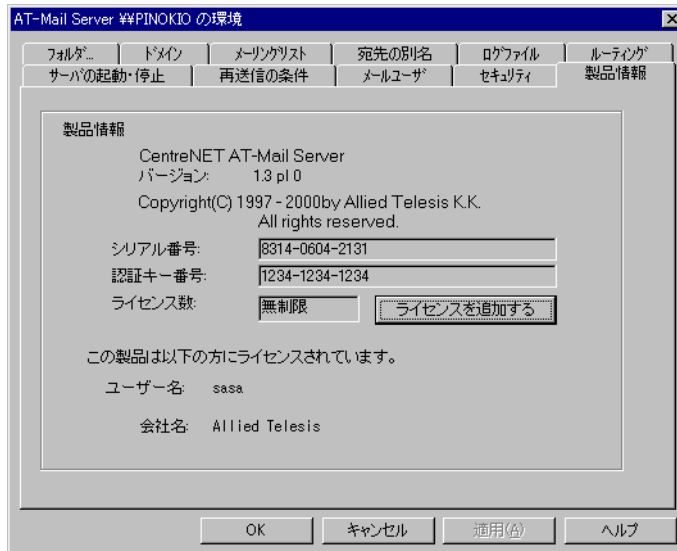


図 8.1.1

8.2 ライセンス数の追加

製品情報ページにある「ライセンスを追加する」ボタンをクリックすると、このような画面が表示されます。

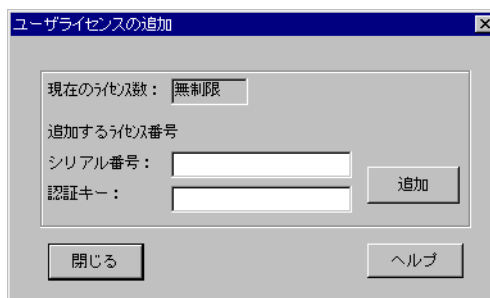


図 8.2.1

- 1 別途購入していただきましたライセンス追加用のシリアルと認証キーをそれぞれの欄に入力してください。
- 2 「追加」ボタンを押すことにより、ライセンスが追加されます。ライセンスが追加されると、「現在のライセンス数」欄に表示される数字が更新されます。

注 AT-MailServer のライセンスでは、お使いの番号を他人に公開することを禁じています。また、同じシリアル番号を複数のマシンに使用することはできません。

9 トラブルシューティング

この章では、AT-MailServer を動作させるときに起こりうる問題のいくつかを取り上げ、その解決方法について説明します。

9.1 サービス起動時の問題

AT-MailServer を起動するとき、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

POP3S で、LogonUserA が見つからない

NT 3.5 システムで POP3S を実行しようとする、「動的リンク・ライブラリ ADVAPI32.DLL に、LogonUserA の手続きエントリ・ポイントが見つかりません」というエラー・メッセージが表示されます。

POP3 サーバは、ユーザとパスワードの認証に、WindowsNT のセキュリティ機能を使用しています。そのため、AT-MailServer は WindowsNT 3.51 以上で動作させる必要があります。

ログオンの失敗 [1907]

POP3S からこのメッセージを受け取った場合は、その POP3 ユーザが初めてログオンしたときに、自分のパスワードを変更する必要があることを意味します。このオプションは、NT ユーザ・マネージャ・プログラムで設定します。ユーザが NT マシンにログオンして自分のパスワードを変更できる場合を除いて、この機能は無効にしておきます。

IP アドレスが決められない

TCP/IP プロトコルのホスト名、およびドメイン名の設定を正しく設定し直してください。コントロール・パネルのネットワーク・アプレットで、リストから TCP/IP Protocol を選択し、「設定」をクリックします。詳細については、お手元の NT マニュアルを参照してください。

場合によっては、お使いのマシンの IP アドレス、およびドメイン名に対応するエントリ 1 つ、または複数、HOSTS ファイル（ファイルの場所はインストール状況により異なります。）に記述する必要があります。

¥¥machine でサービスを開始できません。

エラー 2140:WindowsNT の内部エラーが発生しました。

通常は、このエラー・メッセージは、サービスの初期化処理で障害が発生したことを意味します。障害の詳細情報が、アプリケーション・イベント・ログに記録されています。この情報の参照方法については、「イベント・ログに記録されたエラー」の節（後述）を参照してください。

¥¥machine でサービスを開始できません。

エラー 2186: サービスが、コントロール・ファンクションに応答しません。

サービスが、起動の途中で DNS サーバに情報を要求した場合で、DNS の応答に時間がかかったとき、サービス・コントロール・マネージャが待ちきれなくなると、このエラーが表示されます。数分間程度待ってから動作中のサービスを確認してください。AT-MailServer の 4 つのサービスが正常に起動されていれば、その場合このエラーは無視してかまいません。

9.2 動作中によくある問題

この節では、AT-MailServer の動作中によく起こる問題をいくつか説明します。

メールがメールユーザに配達されない

ローカル・メールに使用するドメイン名を SMTP 送信サーバが把握していない場合に起こります。例えば、user@abc.com にメールを送り、それが AT-MailServer の動作している Windows マシン、例えば mail.abc.com 上のメールユーザ user に配達されることを期待する場合、この問題が起こることがあります。これを回避するには、ドメイン設定ページの仮想ドメイン・リストに、abc.com を追加します。

または、DNS の MX レコードにそのドメイン名が設定されていない可能性も考えられますので、設定されているかどうか確認してください。

メールが送信されない

メールを送信したときに、エラーになり送信できない場合は、以下の項目を確認してください。

- 1 メールクライアント側の Windows95 や WindowsNT 4.0 に含まれている ping コマンドや弊社 AT-TCP/32 のような TCP/IP アプリケーションにパッケージされている ping ユーティリティによって確認できます。
- 2 メールサーバのインストール確認をします。メールサーバが正しくインストールされた場合、以下のコマンドを入力するとインストールしたコンピュータの TCP/IP アドレスおよびホスト名、ドメイン名が表示されます。

```
> smtps -ipaddress  
> smtpds -ipaddress  
> pop3s -ipaddress  
> imap4s -ipaddress
```

- 3 ベントビューアで問題が発生していないかどうか、確認をします。
- 4 AT-MailServer 設定コンソールのルーティングページで送信先のドメインが設定されているか確認します。

IMAP クライアントが CRAM-MD5 による認証に失敗する

CRAM-MD5 による認証機構を利用する前に、以下のどれかの処置をしてください。

- 1 通常のクリアテキストでログインする。
- 2 AT-MailServer のコントロールパネル - ユーザページでそのメールユーザのパスワードを設定する。
- 3 ポート番号=106 を使ってパスワードを変更する。

POP3 クライアントが APOP による認証に失敗する

APOP 認証機構を利用する前に、以下のどれかの処置をしてください。

- 1 通常のクリアテキストでログインする。
- 2 AT-MailServer のコントロールパネル - ユーザページでそのメールユーザのパスワードを設定する。
- 3 ポート番号=106 を使ってパスワードを変更する。

9.3 telnet セッションを利用したトラブルシューティング

POP3 メール・クライアントは、メールのダウンロード時の障害報告をほとんどしません。このような場合、POP3 サーバに telnet 接続して、障害がサーバとクライアントのどちらにあるのが調べられます。以下のコマンドを実行します。

```
telnet machinename 110
```

ここで、*machinename* には POP3 サーバの動作しているマシンの名前（または IP アドレス）を指定します。telnet ウィンドウがオープンし、POP3 サーバのログイン・メッセージが表示されます。下記にテストセッションの例を示します（メールユーザ名「yukino」、パスワード「himitsu」を仮定します）。

```
telnet pinokio.yourdomain.co.jp 110

Trying 192.168.1.104...
Connected to pinokio.
Escape character is '^]'.
+OK AT-Mail Server POP3 Server 1.3 pl 0 Ready
      <13645056.967078449.963@pinokio.yourdomain.co.jp>

user yukino
+OK yukino is welcome here

pass himitsu
+OK yukino's mailbox has 0 message(s) (0 octets)

retr 1
-ERR no such messagea

quit
+OK pinokio.yourdomain.co.jp POP3 server signing off (mailbox empty)
Connection closed by foreign host.
```

- a. メールボックス (inbox) が空であるためにエラーが表示されています。メールボックスにメールが存在する場合、そのメールが1つだけ表示されます。

9.4 イベント・ログに記録されたエラー

この節では、アプリケーション・イベント・ログに記録されるエラー・メッセージのいくつかを説明します。

エラー・メッセージは、イベント・ビューアで参照します。イベント・ビューアは、通常プログラム・マネージャの管理ツールグループにあります。イベント・ビューアのログメニューから、アプリケーションを選択します。エラーをスクロールさせ、それぞれのエラーをさらに詳細に表示できます。イベント・ビューアで AT-MailServer のエラー・メッセージが正しく表示されるためには、AT-MailServer の 4 つのサービスがインストールされている必要があるため、注意が必要です。

Windows ソケット・ライブラリ・ファンクション "bind" が失敗しました。目的のアドレス、またはポートはすでに使用中です。

以下のどちらかの場合に、このエラーが発生します。

AT-MailServer が使用する TCP/IP ポートが、他のアプリケーションで使用中です。他のメールサーバが動作していることも考えられます。

または

AT-MailServer の使用している IP アドレスが不正です。ネットワークアプレットを起動し、正しい IP アドレスを使用するよう、TCP/IP ソフトウェアを設定し直します。

Windows ソケット・ライブラリ・ファンクション "accept" が失敗しました。呼び出しはキャンセルされました。

サービスが、何らかの理由で異常終了したことを示します。サービスを再起動してください。

9.5 古いメールの自動削除メッセージ内容

イベントログ例

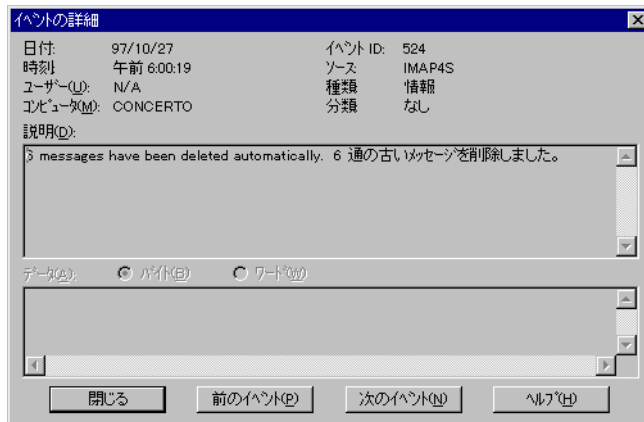


図 9.5.1

管理者宛メールメッセージ例

```
To: postmaster@thatmachine.mycompany.com
Subject: Old messages on your system have been deleted.
From: postmaster@thatmachine.mycompany.com
Date: Thu, 23 Oct 1997 13:35:13 +0900

[Japanese]
各メールユーザのメールボックスに残っていた古いメールを削除しましたのでお知らせ
します。
削除したメール数は、42 通です。

削除したメールについては、以下のリストを参照してください。
メールユーザ名、そのユーザのメールボックスから削除したメール数
の順にまとめてあります。

[English]
Several messages have been deleted automatically because they were
too old.
Total number of deleted messages is 42.
The UserName and Number of Deleted Messages are listed below.

----- The List of Deleted Messages -----
User Name    Number of Deleted Messages
bird         9
flower       14
mike         10
greg         9
```

ユーザ宛メールメッセージ例

```
To:greg
Subject: Your old messages have been deleted.
From: postmaster@thatmachine.mycompany.com
Date: Thu, 23 Oct 1997 13:29:20 +0900

[Japanese]
あなたのメールボックスに残っていた古いメールを削除しましたので
お知らせします。
削除したメール数は、2通です。

削除したメールの詳細については、以下のリストを参照してください。
メールボックス名、発信者、表題、日付、メールの大きさ
の順にまとめてあります。

[English]
Your messages have been deleted automatically because they were too
old.
Total number of deleted messages is 2.

The detail information are listed below as:
MailboxName, From, Subject, Date and Message Size.

----- The List of Deleted Messages -----

Mailbox: inbox
From: Fred Foobar <foobar@Blurdybloop.COM>
Subject: afternoon meeting
Date: Mon, 7 Feb 1994 21:52:25 -0800ÅiPSTÅj
Size: 350 Bytes

Mailbox: inbox
From: lilac <flower@foot.hills.net>
Subject: MS.DOc is attached. 添付しています。
Date: Tue, 15 Jul 1997 17:56:49 +0900
Size: 22,597 Bytes
```


A AT-Mail Server のメカニズム

送信

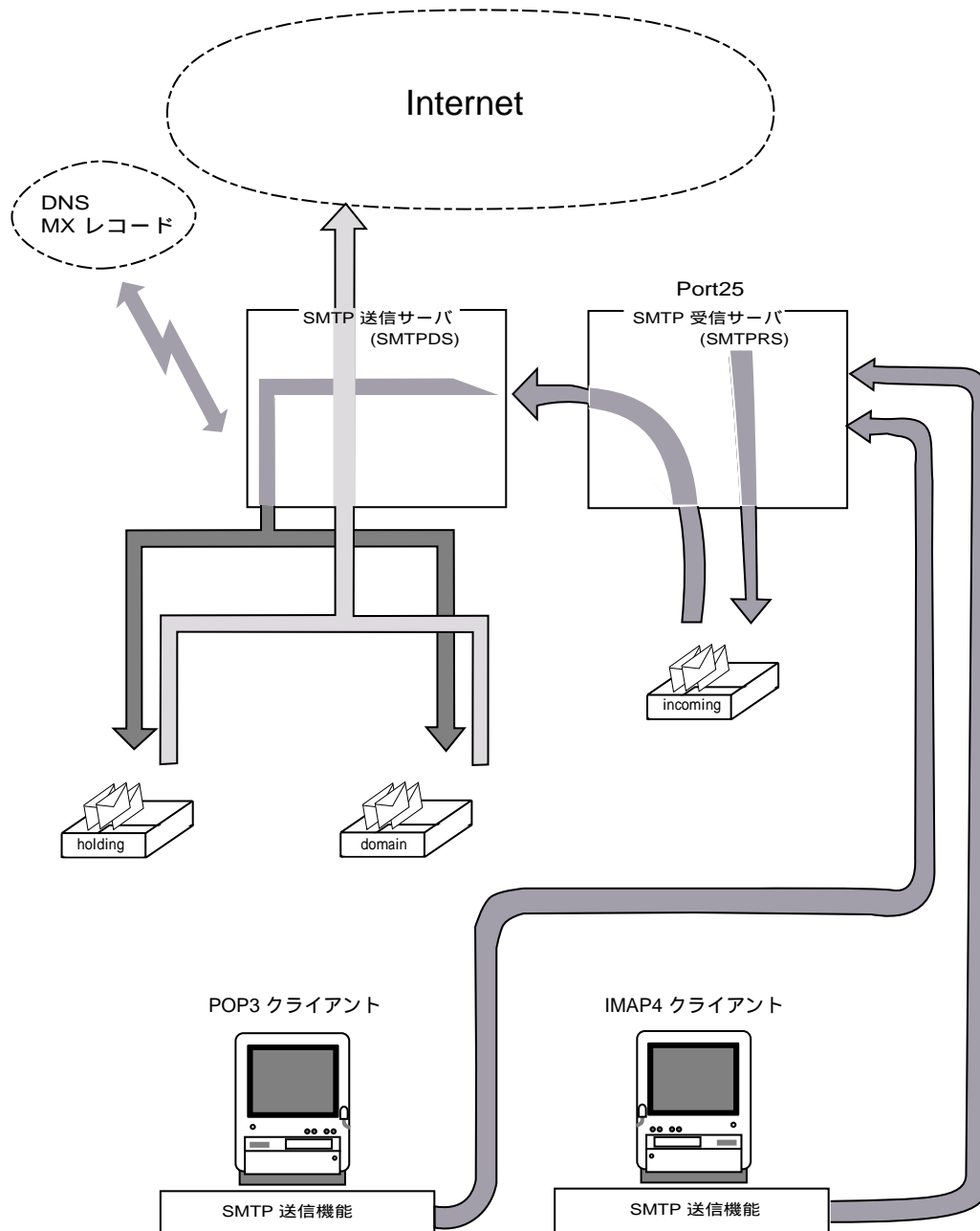


図 1.0.2

受信

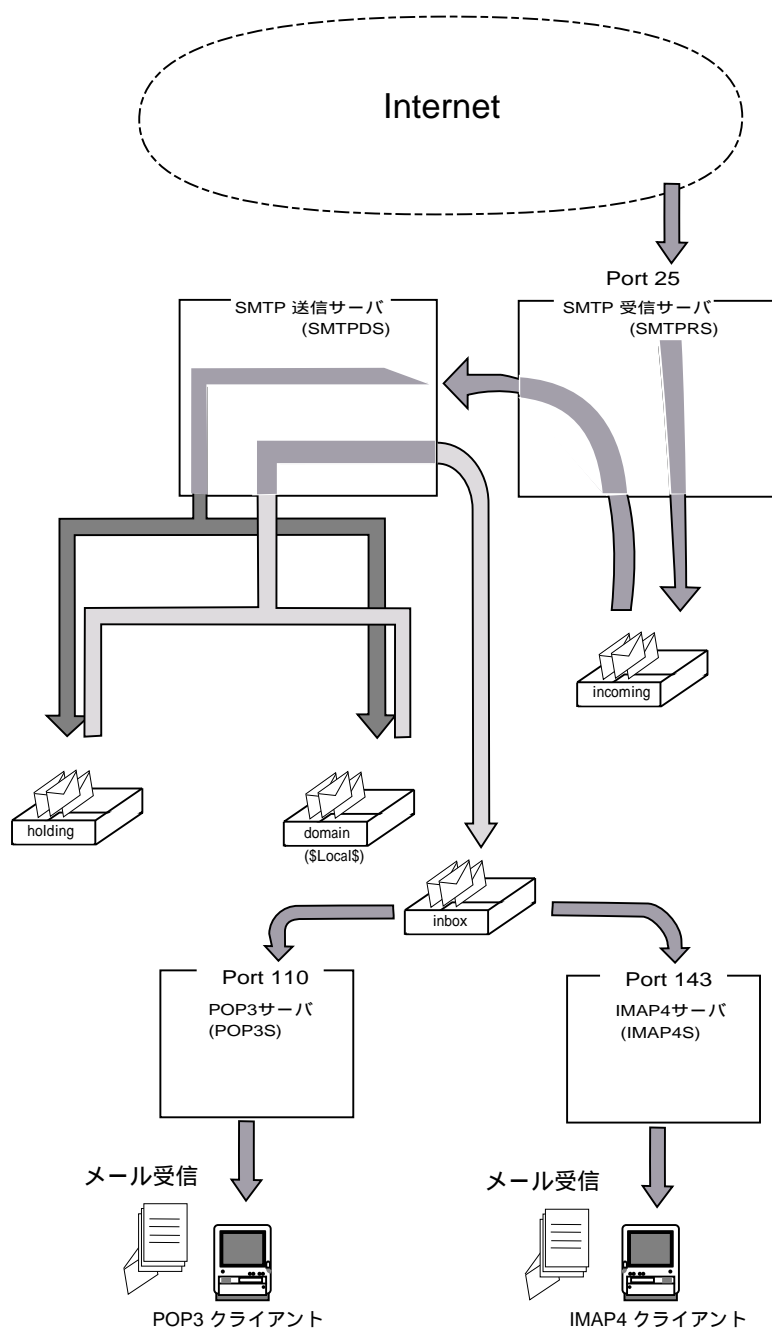


図 1.0.3

A.1 SMTP 受信サーバ

SMTP 受信サーバは、TCP/IP ポートの 25 で、送られてくるメール・メッセージを見張ります。SMTP 受信サーバは、送られてきたメールを、incoming ディレクトリに保存します。

メッセージは、uniquename.MSG、および uniquename.RCP という 2 つの独立したファイルとして保存されます。uniquename は一意的な識別子で、システム内では、メッセージはこの識別子で認識されます。

MSG ファイルには、メッセージ本体が格納されます。このファイルは、ドット付加方式（ドットで始まる行の先頭に、さらにドットを 1 つ付ける方式）で、ファイルの終わりは、ドット 1 つだけの行で示されます。

RCP ファイルには、メッセージの受信者、およびメッセージの送信者（配送できなかった場合の報告は、そこに宛てて送られます）の名前が格納されます。

A.2 SMTP 送信サーバ

SMTP 送信サーバは、SMTP 受信サーバが受け取ったメッセージを処理します。

- SMTP 送信サーバは、incoming メールディレクトリからメッセージを削除し、それを holding ディレクトリに移します。SMTP 送信サーバは、メッセージ受信者リストにおいて、独立したメール・ドメインそれぞれについて domains ディレクトリの下にサブディレクトリを作成し、該当するドメインの受信者に関する情報をそこに保存します。
- 受信 ローカル配送の場合、SMTP 送信サーバは、受信者の情報を domains ディレクトリの下の特異なサブディレクトリ \$local\$ に一時的に格納します。それから、メッセージをそれぞれのローカルな受信者のメールボックスにコピーします。
- 送信 ローカルでない場所に向けたメールの場合、SMTP 送信サーバは、目的のドメインの MX レコードを問い合わせる要求を DNS に発行します。（SMTP 送信サーバは、DNS サーバ・アドレスを、Windows のレジストリから取得します。そのため、WindowsNT に DNS アドレスを設定しておく必要があります）。SMTP 送信サーバは、MX レコードを参照して、目的のドメインに宛てたメッセージを、どの IP アドレス（1 つ、または複数の候補）に送ればよいか決定します。

SMTP 送信サーバは、これらのアドレスのどれか 1 つに接続を試み、成功すればメッセージを送信します。接続できない場合、少し待ってから再び同じドメインに接続を試みます。SMTP 送信サーバは、数日間、そのドメインへの接続を試み続けます。

holding ディレクトリ中のメッセージ・ファイルは、uniquename.MSG 形式で、前述のように、ドット付加方式で、ドットでファイル終了を知らせる形式です。domains ディレクトリ中のファイルは、uniquename.RCP 形式です。

domains ディレクトリには、経路情報や、およびそれぞれのドメインに対して送信サーバが接続を試みた回数の詳細が記録されているファイルも格納されます。

これらのファイルは、編集したり、変更したりしてはいけません。

A.3 POP3 サーバ

POP3 サーバは、TCP/IP ポート 110 で、POP3 メール・クライアントからの接続を見張ります。メール・クライアントが接続してきたら、POP3 サーバは、クライアントが渡してきたパスワードが正しいかどうか調べます。それから、指定のメールボックスから、POP3 クライアントのメール・プログラムに、メッセージを転送します。

メッセージは、前述のとおり、ドット付加方式で、ファイルの終わりをドット 1 つで示す方式の MSG ファイルとして保存されます。

A.4 IMAP4 サーバ

IMAP4 サーバは TCP/IP ポート 143 で、IMAP4 メールクライアントからの接続を見張ります。メールクライアントが接続してきたら、IMAP4 サーバはクライアントが渡してきたパスワードが正しいかどうかを調べます。それから、指定のメールボックスに対して、IMAP4 コマンドを実行し、応答を返します。

メッセージは POP3 サーバと同様のドット付加方式でファイルの終わりをドット 1 つで示す方式の MSG ファイルとして保存します。

A.5 使用するディレクトリ

この節では、AT-Mail Server が使用するディレクトリについて説明します。

メールボックス・ディレクトリ

メールユーザがメッセージを受信するためには、メールボックス・ディレクトリ、および受信メール・ディレクトリが必要です。このメールボックス・ディレクトリは、AT-MailServer 設定コンソールで設定する「受信メールフォルダ」と同じでなければいけません。受信メール・ディレクトリは、inbox と呼ばれます。inbox は、メールボックス・ディレクトリのサブディレクトリです。メールは、SMTP 送信サーバにより、ユーザの受信メール・ディレクトリに転送されます。さらに POP3 クライアントや IMAP4 クライアントの要求によって、POP3 サーバや IMAP4 サーバにより削除されることもあります。

受信メール・ディレクトリを手動で作成する場合は、各メールボックスの書き込み許可を SYSTEM ユーザに、およびフルコントロールの許可をユーザ自身に設定します。AT-MailServer のサービスは、すべて SYSTEM ユーザとして動作させることをお勧めします（デフォルト）。SYSTEM ユーザ以外として動作させる場合、正常に動作しない可能性があります。

AT-MailServer 設定コンソールで、受信メールフォルダが無いとき自動的に作成するをチェックした場合、メールボックス・ディレクトリ、および受信メール・ディレクトリは、必要に応じて自動的に作成されます。

IMAP4 サーバでのメールボックス管理

IMAP4 サーバは、サーバ上でのメールボックスを管理するために、各メールユーザディレクトリの中に aclsum.imp、inbox ディレクトリの中に folder.imp、keyword.imp ファイルを生成します。また、IMAP4 プロトコルで定義されているメッセージの属性などを保持するために、各 MSG ファイルごとに *.stc ファイルを生成します。

なお、これらのファイルは、隠しファイルとして生成されますので通常は表示されません。

送信メールの作業用フォルダ

設定コンソールで、インターネット・メール・サービスの「送信メールの作業用フォルダ」を設定できます。作業用フォルダにはいくつものサブディレクトリがあり、メッセージの「待合所」として使用されます。送信メールの作業用フォルダのディレクトリ構造は、以下の通りです。

incoming

incoming ディレクトリには、SMTP 受信サーバが受信したメッセージが保管されます。SMTP 送信サーバも、メッセージ、具体的には送信できなかったメールの通知、およびメーリングリストに送信するメッセージを incoming ディレクトリに保管します。

holding

SMTP 送信サーバが、incoming ディレクトリから holding ディレクトリに、メッセージを移動します。

domains

メッセージを holding ディレクトリに移動するにあたって、SMTP 送信サーバは、メッセージの送信先の各ドメインに応じたサブディレクトリを、domains ディレクトリの下に作成します。メッセージがローカル・ユーザ向けの場合は、SMTP 送信サーバは \$local\$ というサブディレクトリを作成します。それぞれのサブディレクトリには、SMTP 送信サーバが、経路制御情報、および目的のドメインにおけるメッセージ受信者に関する情報を格納します。(メッセージ自体は、holding ディレクトリに保管されたままです)。

dead

dead ディレクトリには、管理者宛てで、なおかつ配送できないメッセージが集められます。また dead ディレクトリには、メール・ループを発生させたメッセージも集められます。dead ディレクトリ中のメッセージには、dead ディレクトリに分類された理由を記述したテキスト・ファイル (*.TXT) も一緒に保存されます。

lists

lists ディレクトリには、各メーリングリストに対応するサブディレクトリがあります。各メーリングリストごとに 2 つのディレクトリが作成されます。1 つはリスト自体に対応し、もう 1 つは、そのリストの -request アドレスに対応します。メッセージは一時的にこれらのディレクトリに移動され、それからリストのメンバに向けて再送信されます。

lgroups

lgroups ディレクトリには、各 NT メーリングリストに対応するサブディレクトリがあります。各メーリングリストごとに、ディレクトリが 1 つだけ作成されます。NT メーリングリストには、-request アドレスはありません。メッセージは一時的にこれらのディレクトリに移動され、それからリストのメンバに向けて再送信されます。

B コマンド構文

POP3S、SMTPDS、SMTPRSプログラムは、特定のコマンドライン引数を付けて、コマンド・ラインから実行できます。

pop3s コマンドのオプションを、以下に説明します。他サービスのコマンド (smtprs、smtpds、imap4s) はPOP3S をそれぞれのコマンドに置き換えてください。

構文

```
pop3s [-remove | -install] [-version] [-ipaddress] [-status] [-start]
      [-stop] [-Pause] [-resume]
```

説明

pop3s コマンドは、POP3 サーバをインストール、または削除します。

オプション

いくつかのオプションは、一緒に使用できないことに注意してください。例えば -install と -remove オプションは反対の意味を持つため、1つのコマンドで同時に使用しても意味がありません。

-install

POP3 サーバを、インストールしたサービスの一覧に追加します。後々まで残す POP3S.EXE のファイルを実行するように注意してください。

-remove

POP3 サーバを、インストールしたサービスの一覧から削除します。

-version

POP3 サーバのバージョンを報告します。

-ipaddress

POP3 サーバが監視する IP 番号を報告します。

-status

POP3 サーバの現在の状態、つまり動作しているかどうかを報告します。

-start

POP3 サーバを起動します。

-stop

POP3 サーバを停止します。

-pause

POP3 サーバが動作している場合、一時的に実行停止させます。

-resume

POP3 サーバが一時的に停止されている場合、実行を再開させます。

C ディスク警告メールのメッセージ内容

警告メールには、デフォルトでは次のようなメッセージを設定しています。

C.1 ディスクフル警告の検出メール

To:xxxxx

(管理者宛は : Postmaster@thatmachine.mycompany.com)

Subject: User:xxxxx -Disk Quota Warning

(管理者宛は : System: - Disk Quota Warning.)

See below for English message.

[Japanese]

メール用のディスク容量が不足しています。

これ以降のメールが受信できなくなることがありますので、不要なメールを削除してください。

メッセージの合計サイズ : 360 Kb

使用できるディスク容量 : 500 Kb

使用しているディスク容量 : 480 Kb

空きディスク容量 : 20 Kb

[English]

Approaching your message quota limit.

If your total message size exceeds the quota then new messages will be rejected until you remove some messages.

Total size of your messages : 360 Kb

Your message quota limit: 500 Kb

Total amount of your disc space being used : 480 Kb

Available disc space for you.: 20 Kb

C.2 ディスクフル警告の解消メール

To:xxxxx

(管理者宛は : Postmaster@thatmachine.mycompany.com)

Subject: User:xxxxx -Disk Quota Ready to receive new message

(管理者宛は : System: -Disk Quota Ready to receive new message)

See below for English message.

[Japanese]

メールが受信できるようになりました。

メッセージの合計サイズ : 422,785 Kb

使用できるディスク容量 : 2,097,152 Kb

使用しているディスク容量 : 816,120 Kb

空きディスク容量 : 1,281,032 Kb

[English]

Your message quota limit is no longer exceeded.

You might have enough disc space to receive new messages.

Total size of your messages: 422,785 Kb

Your message quota limit: 2,097,152 Kb

Total amount of your disc space being used: 816,120 Kb

Available disc space for you.: 1,281,032 Kb

C.3 ディスクフルの検出メール

To:xxxxx

(管理者宛は : Postmaster@thatmachine.mycompany.com)

Subject: User:xxxxx -Disk Quota Warning

(管理者宛は : System: - Disk Quota Warning.)

See below for English message.

[Japanese]

メール用のディスクが満杯になりました。

これ以降のメールは受信できませんので、不要なメールを削除してください。

メッセージの合計サイズ : 4,016 Kb

使用できるディスク容量 : 512 Kb

使用しているディスク容量 : 4,139 Kb

空きディスク容量 : 0 Kb

[English]

Your message quota limit has been exceeded.

New messages will be rejected until you remove some messages and reduce the total message size to below your quota limit.

Total size of your messages : 4,016 Kb

Your message quota limit: 512 Kb

Total amount of your disc space being used : 4,139 Kb

Available disc space for you.: 0 Kb

C.4 ディスクフルの解消メール

To:xxxxx

(管理者宛は : Postmaster@thatmachine.mycompany.com)

Subject: User:xxxxx -Disk: No longer exceeded but still warning

(管理者宛は : System:-Disk: No longer exceeded but still warning)

See below for English message.

[Japanese]

メールが受信できるようになりましたが、まだ十分な空き容量がありません。
新しいメールが受信できない可能性がありますので、不要なメールを削除してください。

メッセージの合計サイズ : 380 Kb

使用できるディスク容量 : 500 Kb

使用しているディスク容量 : 390 Kb

空きディスク容量 : 110 Kb

[English]

Your message quota limit is no longer exceeded but still warning.

If your total message size exceeds the quota then new messages will be rejected until you remove some messages.

The total message size to below your quota limit.

Total size of your messages : 380 Kb

Your message quota limit: 500 Kb

Total amount of your disc space being used : 390 Kb

Available disc space for you.: 110 Kb

D プロトコル仕様

このページでは、SMTP と POP3 の実装に関する、いくつかの技術仕様を説明します。

D.1 SMTP 受信サーバ

SMTP 受信サーバは、RFC821、RFC1123、RFC1651、RFC1652、RFC1653 および RFC2554 の規定する拡張 SMTP プロトコル (ESMTP) をサーバとして実装したものです (RFC2554 (SMTP AUTH) については、AUTH コマンドのみをサポートしています)。

現在のバージョンの SMTP 受信サーバは、以下の SMTP コマンドをサポートしています。

HELO	EHLO	QUIT
MAIL	RCPT	DATA
RSET	NOOP	

以下の SMTP オプションをサポートしています。

SIZE	8BITMIME	VERFY	AUTH (CRAM-MD5)
------	----------	-------	-----------------

D.2 POP3 サーバ

POP3 サーバは、RFC 1725 の規定する POP3 プロトコルを実装します。

現在のバージョンの POP3 レシーバは、以下の POP3 コマンドをサポートしています。

USER	PASS	STAT
LIST	RETR	DELE
NOOP	RSET	TOP
QUIT	UIDL	APOP

いくつかのクライアントが使用している、ポート 106 経由のユーザのパスワード変更機能のプロトコルは、正式に規定されていませんが、POP3 サーバはサポートしています。このプロトコルは非常に単純なため、例を挙げて説明します。ここで S はサーバ、C はクライアントです。

```
S: 200 HELLO
C: USER yourloginname
S: 300 Please send your password now
C: PASS yourcurrentpassword
S: 200 Ok
C: NEWPASS yournewpassword
S: 200 Ok
C: QUIT
S: 200 Bye-bye%r%n
S: < 接続の切断 >
C: < 接続の切断 >
```

D.3 IMAP4 サーバ

IMAP4 サーバは、RFC2060 の規定する IMAP¹ プロトコル Version 4 Revision 1 と RFC2195 の規定する IMAP/POP A Extension for Simple Challenge/Response (CRAM-MD5) を実装したものです。これらのプロトコルの詳細については、以下の URL を参照してください。(RFC2087 (Quota Extension)、RFC2086 (IMAP ACL Extension)、RFC2342 (Namespace))

<http://ds.internic.net/rfc/rfc2060.txt>

<http://ds.internic.net/rfc/rfc2195.txt>

<http://ds.internic.net/rfc/rfc2086.txt>

<http://ds.internic.net/rfc/rfc2342.txt>

<http://ds.internic.net/rfc/rfc2087.txt>



1. Internet Message Access Protocol

D.4 クライアントとのプロトコル

IMAP4 QUOTA Extension

AT-MailServer のディスク管理機能は、RFC2087 IMAP4 QUOTA Extension に定義されている機能に準拠しています。AT-MailServer では、STORAGE と TRIGGER という名前でのリソースを用いています。

STORAGE: 各ユーザに与えられるディスク容量

TRIGGER: 各ユーザ対し、警告を出すディスク容量

RFC2087 をサポートしたクライアントを使ってディスク容量を管理する場合は、以下のような動作になります。

クライアントと IMAP サーバの通信例：

表 4.4.1

コマンド (クライアント サーバ) ^a	応答 (クライアント サーバ)
tag SETQUOTA "" (STORAGE 512)	
	* QUOTA username (STORAGE 10 512) tag OK SETQUOTA completed.
tag SETQUOTA "" (TRIGGER 500)	
	* QUOTA username (TRIGGER 10 500) tag OK SETQUOTA completed.
tag SETQUOTA "" (STORAGE 512 TRIGGER 500)	
	* QUOTA username (STORAGE 10 512 TRIGGER 10 500) tag OK SETQUOTA completed.
tag GETQUOTA ""	
	* QUOTA username (STORAGE 10 512 TRIGGER 10 500) tag OK SETQUOTA completed.
tag GETQUOTAROOT mailbox	
	* QUOTAROOT mailbox username * QUOTA username (STORAGE 10 512 TRIGGER 10 500) tag OK SETQUOTA complete

a. 表における各数字の意味は (単位は KB)、10 現在の使用量、512 使用限界値、500 警告限界値

IMAP4 ACL Extension

AT-MailServer のメールボックスの共有機能は、RFC2086 IMAP4 ACL Extension に準拠していません。

AT-MailServer では、RFC2086 の機能に加え、以下の 2 つのアクセス情報を、AT-MailServer 独自の拡張機能として実現しています。

表 4.4.2

アクセス情報	意味
0 (ゼロ)	メールボックスの削除クライアントから DELETE コマンドを実行できます。
1 (イチ)	メールボックス名の変更クライアントから RENAME コマンドを実行できません。

また、IMAP クライアントからは、以下の手順で共有メールボックスをアクセスできます。

一覧表示

```
tag LIST "#shared/" *
```

選択

```
tag SELECT #shared/<username>/<mailbox>
```

ただし、

<username> 共有するメールボックスの所有者 (メールユーザ名)

<mailbox> 共有するメールボックス名

メールボックス内のメッセージの操作

一般のメッセージと同じ

E ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項を記入し、下記のサポート先に FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただく方が、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金（祝・祭日を除く）9:00～12:00、13:00～18:00

土（祝・祭日を除く）10:00～17:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受け付け

調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、障害の原因を突き止めることに時間がかかり、最悪の場合には障害の解消ができない場合もあります。迅速に障害の解消を行うためにも、担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。記入用紙で書き切れない場合には、プリントアウトなどを別途添付ください。なお、都合によりご連絡の遅れる事もございますので予めご了承ください。

ソフトウェアとハードウェア

- 1 本製品のバージョン、パッチレベル、シリアル番号をご記入ください。これらの情報は、「コントロールパネル」「AT-Mail Server」アイコン「製品情報」タグで表示されます。「認証キー番号」と間違わないようにご記入ください。
- 2 本製品をインストールした WindowsNT、コンピュータや LAN アダプタについてご記入ください。Version、Service Pack、メモリは、「マイコンピュータ」アイコン「マイコンピュータ」ダイアログ「ヘルプ(H)」「バージョン情報(A)」で表示されます。
- 3 本製品を利用しているメールクライアントのソフトウェア名やコンピュータについて記入してください。

お問い合わせ内容について

- 1 どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入して下さい。
- 2 障害などが発生する場合には、併用しているユーティリティ、アプリケーションの処理内容も記入してください。

- 3 エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを必ず添付してください。

ネットワーク構成について

メールの運用形態がわかるようにネットワーク構成図を記入してください。

調査依頼書 (AT-MailServer 1/2)

年 月 日

一般事項

1. 御社名 :

部署名 :

ご担当 :

ご連絡先住所 : 〒

TEL : ()

FAX : ()

2. ご購入先 :

ご購入年月日 :

ご購入先担当者 :

ご連絡先 (TEL) : ()

ハードウェアとソフトウェア

1. AT-Mail Server

バージョン : Ver. _____ pl. _____ シリアル番号 : _____ - _____ - _____

ユーザライセンス数 : _____

2. AT-Mail Server を実行しているサーバー OS タイプ

Windows 2000 Service Pack : _____

Professional Server Advanced Server

WindowsNT Version : _____ Service Pack : _____

Server Workstation

3. AT-MailServer がインストールされているコンピュータの機種とメーカー名 :

コンピュータに実装されているメモリ : _____ KB

コンピュータのハードディスク容量 : _____ MB

LAN アダプタ機種とメーカー名 : _____

4. AT-Mail Server を利用しているメールクライアント

メールソフトウェア名とメーカー名 : _____

ユーザ認証方式 : IMAP POP3

5. メールクライアントを実行しているコンピュータ機種とメーカー名 :

コンピュータの OS とバージョン : _____

調査依頼書 (AT-MailServer 2/2)

年 月 日

お問い合わせ内容

別紙あり 別紙なし

設置中に起こっている障害 設置後、運用中に起こっている障害 (どのくらい後: _____)

ネットワーク構成図

別紙あり 別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

ご注意

(1)本マニュアルは、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス株式会社が保有しています。アライドテレシス株式会社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。

(2)アライドテレシス株式会社は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。

(3)アライドテレシス株式会社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。

(4)本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果についてはいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 1997, 2000 アライドテレシス株式会社

Copyright The University of Edinburgh 1996, 1997, 2000 and provided under licence to Allied Telesis K.K.

マニュアルバージョン

1997年7月7日	Rev.A	Ver.1.0 pl. 0
2000年3月10日	Rev.B	統合
2000年9月1日	Rev.C	Windows 2000 対応、Ver.1.3 Pl.0

商標について

CentreNET はアライドテレシス株式会社の登録商標です。WindowsNT、Windows、MS-DOS、MS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。